

授業科目名： 学校図書館メディアの構成		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 江口 寛
				担当形態： 単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
図書やウェブなど学校図書館で活用するさまざまなメディアの収集や利用のための整理に関する実務能力の獲得をめざす。すな わち、学校図書館メディアの専門職である司書教諭としての基本的な知識を獲得することを達成目標とする。 これらの知識を獲得することで、さまざまな情報源にアクセスし、多様な情報を収集、分析、整理し、活用する能力を深める。				
授業の概要				
学校図書館メディアは、学校の教育課程の展開、児童生徒の教養の育成を目的として、図書、視聴覚資料、コンピュータ・ソフト等 の各種メディアをもって構成する。学校教育や児童生徒において学校図書館の活用を促すためには、学習活動や読書活動の展 開に資するコレクションが質と量ともに充実していることが大切である。 そのために、「学校図書館メディアの構築」では、高度情報社会における学習環境の変化にともなうメディアの教育的意義と役割に ついて知り、あわせて各種メディアの種類と特性を把握する。また、学習活動や読書活動に資する学校図書館メディアのコレクシ ョン構築のための実際のプロセスを理解し、選択・収集・更新・廃棄の実務能力を身につける。さらに、組織化に関して、その目的や 意義やプロセスを理解し、目録や分類などの実務能力を獲得する。				
授業計画				
第1回：学校図書館メディアの教育的意義と役割				
第2回：学習環境の変化と学校図書館メディア				
第3回：学校図書館メディアの種類と特性(1)さまざまな学校図書館メディア				
第4回：学校図書館メディアの種類と特性(2) 特別な教育ニーズに応える学校図書館メディア				
第5回：学校図書館におけるコレクション構築の基本				
第6回：学校図書館におけるコレクション構築の実際(1)選択と収集				
第7回：学校図書館におけるコレクション構築の実際(2)評価および更新、廃棄				
第8回：学校図書館メディア組織化の基本				
第9回：学校図書館メディア組織化の新しい展開				
第10回：学校図書館メディア組織化の実際(1)目録法①				
第11回：学校図書館メディア組織化の実際(2)目録法②				
第12回：学校図書館メディア組織化の実際(3)主題索引法①				
第13回：学校図書館メディア組織化の実際(4)主題索引法②				
第14回：これからの学校図書館メディアとその構成				
第15回：授業まとめ、確認テスト				
テキスト				
なし				
参考書・参考資料等				
授業中に適宜資料を配布する。また、以下のテキストを読んでおくことで授業の理解に役に立つ。 「学校図書館メディアの構成」(探求学校図書館 第 2 巻)全国学校図書館協議会「探求 学校図書館学」編集委員会編著、全国 学校図書館協議会、2020 年。 「学校図書館必携 改訂版」全国学校図書館協議会監修、悠光堂、2017 年。 「学校図書館基本資料集」野口武悟編、全国学校図書館協議会、2018 年。				
学生に対する評価				
授業時間中の確認テスト、レポート課題の提出等を行い(90%)、講義参加度合い等(10%)と合わせて評価する。				

授業科目名： 学習指導と学校図書館		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 阿部 はる奈
				担当形態： 単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標 児童・生徒の学習を再活性化する可能性を持った学習指導における学校図書館の活用法について理解を深め、学校図書館を活用した調べ学習（探求学習）に焦点を当てながら、必要な知識と指導技術を修得する。				
授業の概要 学力とは何かを踏まえ、学校図書館が拓く教育の可能性を考察する。実践事例として学校図書館を活用した探求学習の過程やレファレンスサービスについて学び、調べ学習の指導案・成果物の作成を行う。				
授業計画				
第 1 回： 学校図書館が拓く新しい教育の可能性				
第 2 回： 学力とは何か				
第 3 回： 学校図書館を活用する調べ学習の過程（1）―課題設定①				
第 4 回： 学校図書館を活用する調べ学習の過程（2）―課題設定②				
第 5 回： 学校図書館を活用する調べ学習の過程（3）―情報検索・収集				
第 6 回： 学校図書館を活用する調べ学習の過程（4）―情報を記録する				
第 7 回： 学校図書館を活用する調べ学習の過程（5）―結論を導く・成果をまとめ、発表する				
第 8 回： 学習活動を支援する学校図書館の現状と課題（1）―メディアの整備				
第 9 回： 学習活動を支援する学校図書館の現状と課題（2）―レファレンスサービス（グループ内での発表）				
第 10 回： 調べ学習の指導案作成要領（1）―課題設定				
第 11 回： 調べ学習の指導案作成要領（2）―情報を整理し記録する				
第 12 回： 調べ学習の指導案作成要領（3）―調べ学習指導計画作成				
第 13 回： 調べ学習の指導案作成要領（4）―調べ学習指導計画の発表（グループ内）				
第 14 回： 調べ学習の指導案作成要領（5）―調べ学習実践例				
第 15 回： 授業まとめ、ふりかえり試験				
テキスト なし				
参考書・参考資料等				
宅間紘一『論文の考え方・書き方 はじめての論文作成術』（新泉社 2021 年） ISBN 978-4-7877-2105-1				
大串夏身・大平睦美『学校図書館学 3 学習指導と学校図書館』（青弓社 2020 年） ISBN 978-4-7872-0057-0				
全国学校図書館協議会監修『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践 新訂版』（悠光堂 2021 年） ISBN 978-4-909348-33-3				
学生に対する評価				
授業中試験（ふりかえり試験）30％				
講義関連演習 70％				

授業科目名： 道徳教育の指導法		教員の免許状取得のための 必修科目(中学校) 選択科目(高等学校)	単位数： 2 単位	担当教員名： 福若 真人
				担当形態： 単独
科 目		・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談当に関する科目(中学校) ・大学が独自に設定する科目(高等学校)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標				
【授業のテーマ】 道徳教育に関する基礎理論・知識を学び、実践的指導力の基礎を養う。				
【到達目標】 1) 道徳および道徳教育に関する理論や原理、歴史から、その意義や課題について論じることができる 2) 学校における道徳教育の役割や目標、内容について説明することができる 3) 教材研究や学習指導案の作成、授業改善などの実践的な指導力を身につける				
授業の概要 本授業では、国内外における道徳教育の理論や歴史を含む理論的側面と、教材研究や指導案の作成などを含む実践的側面の両方を踏まえた、道徳教育に関する総合的な知識と指導力を身につけることをめざす。道徳教育をめぐる賛否や、時代の変化に応じた留意点(例えば、情報通信技術の活用)など、「特別の教科」に位置づけられた道徳教育のあり方や指導法について、授業内のディスカッションやグループワーク、レポート作成、模擬授業などを通じて、受講者の考えを深めるとともに、実際の指導を行ううえで基礎となる理論や方法について講義を行う。				
授業計画 第1回： イントロダクション 第2回： 道徳教育の基礎(1) 「道徳」の本質 第3回： 道徳教育の基礎(2) 学校における道徳教育 第4回： 道徳教育の基礎(3) 理論的意義と課題 第5回： 道徳教育の歴史(1) 戦前の道徳教育 第6回： 道徳教育の歴史(2) 戦後の道徳教育 第7回： 教材の分析と多様な指導方法(情報通信技術の活用を含む) 第8回： 指導計画の作成と指導の実際 第9回： 道徳性の発達理論と発問の諸相 第10回： 学習指導案づくり(1) ねらいの検討、学習指導過程の構想 第11回： 学習指導案づくり(2) 評価の進め方、板書計画 第12回： 模擬授業の実施およびその振り返り(1) 読み物教材を中心とした授業方法の工夫 第13回： 模擬授業の実施およびその振り返り(2) 問題解決的な学習等の授業方法の工夫 第14回： 諸外国における道徳教育の実際 第15回： 授業の総括 定期試験は実施しない。				
テキスト 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成 29 年 7 月告示、文部科学省)(教育出版、2018 年、172 円、文部科学省 HP からダウンロード可)				
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編(平成 29 年 7 月告示、文部科学省)(廣済堂あかつき、2018 年、149 円、文部科学省 HP からダウンロード可) 藤田昌士・奥平康照監修 『道徳教育の批判と創造—社会転換期を拓く—』(エイデル研究所、2019 年、2,750 円) その他、授業内に適宜、紹介する。				
学生に対する評価 授業への参加状況・授業内課題(50%)＋期末レポート課題(50%)				

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 岡根 好彦
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
憲法とはいかなる法であるか、その役割や内容について理解する。 また、授業を通じて、社会の様々な問題に対応していくために必要な論理的思考力や衡平感覚を養う。			
授業の概要			
憲法は、国家権力の暴走によって国民の権利や自由が不当に侵害されることがないように、国家権力を統制することを目的とする法であり、その点から法律よりも上位の規範として扱われる。 そして、それゆえに、憲法では、国民の権利や自由を国家に保障させる旨が明記されるとともに、その保障を実効化するための国家組織のあり方が規定されている。 本授業では、そのような憲法の役割について、基本的人権や統治機構の解説を通して、詳細に伝えていきたいと考える。			
授業計画			
第1回 憲法とは、憲法の役割			
第2回 国民主権、平和主義			
第3回 人権の享有主体性			
第4回 法の下での平等			
第5回 精神的自由権①(思想良心の自由、信教の自由)			
第6回 精神的自由権②(表現の自由)			
第7回 経済的自由権			
第8回 社会権			
第9回 参政権、新しい人権			
第 10 回 国会			
第 11 回 内閣			
第 12 回 裁判所①(司法権)			
第 13 回 裁判所②(違憲審査制)			
第 14 回 財政			
第 15 回 地方自治			
期末テスト			
テキスト			
授業は大林啓吾ほか編『シリーズ スタートアップ教室 ケースで学ぶ憲法ナビ[第 2 版]』(株式会社みらい、2021 年)の内容に沿いながら進めるので、同書を教科書として指定する。 また、授業では、憲法や法律の条文を参照することもあるため、佐伯仁志ほか編『ポケット六法(令和 4 年版)』(有斐閣、2021 年)(最新版であればほかの六法でも問題なし)を使用する。			
参考書・参考資料等			
自分で憲法をさらに勉強したい学生に対しては、芦部信喜『憲法』(岩波書店、第七版、2019 年)、高橋和之ほか『憲法1・2』(有斐閣、第 5 版、2012 年)を参考書として勧める。 また、授業では判例を扱うこともあるため、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 1・2』(有斐閣、第 7 版、2019 年)も挙げておく。			
学生に対する評価			
授業内容確認テストの成績:40%			
期末テストの成績:60%			

授業科目名： スポーツ・トレーニングa (ウエイトトレーニング)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：黒田 雄司 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
人にはその人独自の身体の動き方があり、10人いれば 10通りの動きがあります。この授業では自分自身の身体を理解し、自分に合ったウエイトトレーニングのフォームを見つけ、健康保持増進や競技力向上に活かすことができるようになることを目標とする。 ①自分の身体に「気づく」 ②使っていない筋肉を「目覚めさせる」 ③自分に合った正しい動きに「変える」 これらの基本はしっかり立てているか！「姿勢」が大事です。最終、自分に合った姿勢を作り身体を動かせるようになることを目標とする。			
授業の概要			
自分の身体を知るためには、身体の中心を知ることが大事である。 動きには身体の末端「手先・足先」から動くのか中心「丹田・体幹」から動くかでは全く違う。骨・筋肉・内臓・神経・脳これらをどのように意識し合わせて動かすのか、呼吸方法(有酸素・無酸素)、終動負荷、初動負荷、収縮・弛緩、といったことをどのように意識し(無意識に)身体を動かすことが大事かを授業で理解学習し動作を改善していく。 体力測定から始まり、「体幹・コア」「肩・上肢」「胸部」「腹部」「背部」「下肢」の部位に分けてトレーニングしていく。また、太い固い筋肉は競技スポーツに大事なのか？細い柔軟な筋肉は何故大事なのか？など、さまざまな角度からウエイトトレーニングについて学習していく。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション「トレーニングとは」 第2回 体力測定 第3回 骨について 第4回 筋肉について 第5回 ストレッチ 第6回 身体感覚 第7回 五感・効き目 第8回 腹圧・呼吸 第9回 初動負荷 第 10 回 4スタンス 第 11 回 体幹・コア(トレーニング) 第 12 回 肩・上肢(トレーニング) 第 13 回 胸部(トレーニング) 第 14 回 腹部・背部(トレーニング) 第 15 回 下肢(トレーニング) 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせる。			
テキスト			
小山裕史『奇跡のトレーニング』講談社			
参考書・参考資料等			
授業中提示			
学生に対する評価			
①積極的受講態度、②小テスト(骨・筋肉)を総合的に評価する。			

シラバス

授業科目名： スポーツ・トレーニングa (ゴルフ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：本田 明 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ「ゴルフの基礎技術」 本講義の到達目標は受講生がゴルフの基本技術を身につけること、ゴルフのゲーム特性を理解し、ルールとマナーを学び、実技の中でそれを実践することである。			
授業の概要 近年、ゴルフはテレビ等を通じ、多く取り上げられ、また松山英樹の活躍もあり大変人気の生涯スポーツです。そのためには、正しい知識と技能を身につけることにより生涯にわたり楽しめるゴルフを基本となる技術、ルールの理解、マナー、エチケットの習得が求められます。本授業ではゴルフを楽しみながら基礎技術の習得、ルール、エチケット、マナーを理解し、身につけることを目標とします。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 クラブと用具の説明。パターを使って打撃練習。 第 3 回 スイング練習。グリップとアドレス 第 4 回 スイング練習。ショートアイアン 第 5 回 スイング練習。ミドルアイアン 第 6 回 スイング練習。ロングアイアン 第 7 回 スイング練習。ドライバー、3w、5w 第 8 回 打撃練習。ショートアイアン 第 9 回 打撃練習。ミドルアイアン 第 10 回 打撃練習。ロングアイアン 第 11 回 打撃練習。ドライバー、3w、5w 第 12 回 打撃練習。ショートゲーム 第 13 回 打撃練習。ショートゲーム 第 14 回 打撃練習。ショートゲーム 第 15 回 振り返り 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 授業態度、学習意欲等をみて総合的に評価する。			

シラバス

授業科目名： スポーツ・トレーニングa (ダンス)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：光安 知佳子 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 ダンスの基礎的な技術を体得し、リズム感を養い、踊る喜びや楽しさを仲間と協力し体感することを目標とします。リズムに合わせて、様々なステップを踏む動きを基本とし、身体を動かす楽しさを実感しながら心身の健康の維持・増進を図る事を目的とし、実践を通して創作の基本構成を理解し基本ステップの習得を目指します。また、自分自身の身体と感性を知り、自己表現能力の向上を図ります。			
授業の概要 この授業では、ダンスをするための身体づくりをしながら、ダンスの基礎的な技術を学習します。以下の内容を目的に授業を展開していきます。また、グループワークを通してコミュニケーション能力の向上を目標とします。（実際に舞台上で活躍しているプロダンサーによる WS などとも予定）リズム感を養い、踊る喜びや楽しさを体得すること目的とします。現代的リズムに合わせてダンスの特徴や身体の構造、実施上の環境や注意点などの理解を深めます。また、基本ステップ、正しい身体の使い方を習得し、表現にあった創作ができるよう発想力や想像力を養います。身体表現を中心とする芸術（創作ダンス）としてのダンスでは、ダンスのテクニックを学ぶとともに自己表現力を身につけます。			
授業計画 第1回 オリエンテーション（毎時間の w-up、基礎、コンビネーションの説明） 第2回 フロアーレッスン（ダンステクニックに必要な身体づくり） 第3回 ダンスステップ（パドブレ、ダブルターン、ジャンプターン応用） 第4回 リズムと動き（コンビネーション） 第5回 ダンス基礎テクニック1 第6回 ダンス基礎テクニック2 第7回 ダンス基礎テクニック 3 第8回 ダンス基礎テクニック 4 第9回 ストリートダンス 第 10 回 ジャズダンス 第 11 回 シアターダンス 第 12 回 グループ創作1 第 13 回 グループ創作2 第 14 回 グループ創作3 第 15 回 グループ発表			
テキスト 必要に応じ資料を配布する。			
参考書・参考資料等 『ダンスの教育学』総監修 松田岩男、監修/編集 松本千代栄、徳間書店、1992 年 11 月			
学生に対する評価 ①授業態度・積極性・協調性（グループワークなど授業内での積極性）60％ ②内容の理解度10％ ③技術力20％ ④その人なりの発展度（いかに真剣に対峙したか）10％ 以上による総合評価を行うため、授業の積極的参加を必要とする。			

シラバス

授業科目名: スポーツ・トレーニングa (トランポリン)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:中野 孝司 担当形態: 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
トランポリンは、全身運動である為、身体バランスを鍛えながら、脳内トレーニングもできる運動です。 トランポリン器具を使用してのジャンプは、脳内を活性化して五感の働きが良くなります。また、非日常的な空中動作、感覚的身体運動から、自己のバランス能力や身体支配能力を開発、高めるとともに、技の習得で得た分析能力を将来の一助にいただけたらと思います。 到達目標は、バッジテスト種目の5級と4級の習得、シャトルゲーム、シンクロ演技の習得			
授業の概要			
トランポリン種目の組み合わせや、段階順序の考え方を学ぶとともに、各個人に応じたプログラムや重点配当などの組み立てが可能になるよう学習する。トレーニングと動作改善との結びつきを感じられるようにすることも大切である。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 第2回 器具の理解、基本姿勢1～6のジャンプ 第3回 抱え跳び、開脚跳び、1/2 捻り跳び、腰落ち～立つ 第4回 基礎技のシリーズ練習、バッジテスト5級のパート別練習 第5回 バッジテスト5級のパート別練習～全習 第6回 バッジテスト4級のパート別練習 第7回 バッジテスト4級のパート別練習～全習 第8回 シンクロ演技の説明と基礎技のシリーズでの実施 第9回 スイブルヒップスのパート別練習 第 10 回 バッジテスト5級でシンクロ演技 第 11 回 バッジテスト4級でシンクロ演技 第 12 回 シャトルゲームの説明と実施 第 13 回 シャトルゲームで対戦 第 14 回 実技試験にむけての練習 第 15 回 シンクロ演技の実技試験 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせで実施する。			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
「公認トランポリン普及指導員資格認定講習会教本」 (公財)日本体操協会 「トランポリン競技」大林正憲 著 道和書院			
学生に対する評価			
平常点を重視します。(出席率、授業態度など) 実技試験の可否を含みます。			

授業科目名： スポーツ・トレーニングa (フットサル)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：朴 成基、北條貴紀 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 近年少人数で楽しめるフットサル人気が定着してきました。¥n ただなんとなくボールを蹴り、汗をかくだけではなく、フットサルをさらに楽しむために必要なスキルを取得しましょう。			
授業の概要 まずフットサルのルールを明確に理解するところから入り、個人としての戦う術、グループとしてのコンビネーション、チームとしての戦略と戦術にまで発展させていきたい。また、相手チームのストロングポイントとウィークポイントを察知し、柔軟かつ大胆に勝利を目指す過程で、フットサルの楽しさを感じてほしい。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 能力測定のためのゲーム 第 3 回 ルールの把握 第 4 回 ボールコントロールの基本 1 第 5 回 ボールコントロールの基本 2 第 6 回 ボールコントロールの基本 3 第 7 回 コンビネーションプレー1 第 8 回 コンビネーションプレー2 第 9 回 コンビネーションプレー3 第 10 回 リスタートの工夫 第 11 回 リーグ戦 1 節 第 12 回 リーグ戦 2 節 第 13 回 リーグ戦 3 節 第 14 回 映像を用いたフットサルの戦術講義 第 15 回 リーグ戦最終節 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。			
テキスト 授業毎にスポーツノートを配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業毎にこちらから配布するスポーツノート提出を義務とします。授業に挑む積極性を評価します。当然 100％出席を求めます。			

授業科目名： スポーツ・トレーニングb (ウェイトトレーニング)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：黒田 雄司 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 人にはその人独自の身体の動き方があり、10人いれば 10通りの動きがあります。この授業では自分自身の身体を理解し、自分に合ったウェイトトレーニングのフォームを見つけ、健康保持増進や競技力向上に活かすことができるようになることを目標とする。 ①自分の身体に「気づく」 ②使っていない筋肉を「目覚めさせる」 ③自分に合った正しい動きに「変える」 これらの基本はしっかり立てているか！「姿勢」が大事です。最終、自分に合った姿勢を作り身体を動かせるようになることを目標とする。			
授業の概要 自分の身体を知るためには、身体の中心を知ることが大事である。 動きには身体の末端「手先・足先」から動くのか中心「丹田・体幹」から動くかでは全く違う。骨・筋肉・内臓・神経・脳これらをどのように意識し合わせて動かすのか、呼吸方法（有酸素・無酸素）、終動負荷、初動負荷、収縮・弛緩、といったことをどのように意識し（無意識に）身体を動かすことが大事かを授業で理解学習し動作を改善していく。 体力測定から始まり、「体幹・コア」「肩・上肢」「胸部」「腹部」「背部」「下肢」の部位に分けてトレーニングしていく。また、太い固い筋肉は競技スポーツに大事なのか？細い柔軟な筋肉は何故大事なのか？など、さまざまな角度からウェイトトレーニングについて学習していく。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 「トレーニングとは」 第2回 体力測定 第3回 骨について 第4回 筋肉について 第5回 ストレッチ 第6回 身体感覚 第7回 五感・効き目 第8回 腹圧・呼吸 第9回 初動負荷 第10回 4スタンス 第11回 体幹・コア(トレーニング) 第12回 肩・上肢(トレーニング) 第13回 胸部(トレーニング) 第14回 腹部・背部(トレーニング) 第15回 下肢(トレーニング) 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせる。			
テキスト 小山裕史『奇跡のトレーニング』講談社			
参考書・参考資料等 授業中提示			
学生に対する評価 ①積極的受講態度、②小テスト(骨・筋肉)を総合的に評価する。			

シラバス

授業科目名： スポーツ・トレーニングb (ゴルフ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：本田 明 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ「ゴルフの基礎技術」 本講義の到達目標は受講生がゴルフの基本技術を身につけること、ゴルフのゲーム特性を理解し、ルールとマナーを学び、実技の中でそれを実践することである。			
授業の概要 近年、ゴルフはテレビ等を通じ、多く取り上げられ、また松山英樹の活躍もあり大変人気の生涯スポーツです。そのためには、正しい知識と技能を身につけることにより生涯にわたり楽しめるゴルフを基本となる技術、ルールの理解、マナー、エチケットの習得が求められます。本授業ではゴルフを楽しみながら基礎技術の習得、ルール、エチケット、マナーを理解し、身につけることを目標とします。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 クラブと用具の説明。パターを使って打撃練習。 第 3 回 スイング練習。グリップとアドレス 第 4 回 スイング練習。ショートアイアン 第 5 回 スイング練習。ミドルアイアン 第 6 回 スイング練習。ロングアイアン 第 7 回 スイング練習。ドライバー、3w、5w 第 8 回 打撃練習。ショートアイアン 第 9 回 打撃練習。ミドルアイアン 第 10 回 打撃練習。ロングアイアン 第 11 回 打撃練習。ドライバー、3w、5w 第 12 回 打撃練習。ショートゲーム 第 13 回 打撃練習。ショートゲーム 第 14 回 打撃練習。ショートゲーム 第 15 回 振り返り 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 授業態度、学習意欲等をみて総合的に評価する。			

シラバス

授業科目名： スポーツ・トレーニングb (ダンス)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：光安 知佳子 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
ダンスの基礎的な技術を体得し、リズム感を養い、踊る喜びや楽しさを仲間と協力し体感することを目標とします。リズムに合わせて、様々なステップを踏む動きを基本とし、身体を動かす楽しさを実感しながら心身の健康の維持・増進を図る事を目的とし、実践を通して創作の基本構成を理解し基本ステップの習得を目指します。また、自分自身の身体と感性を知り、自己表現能力の向上を図ります。			
授業の概要			
この授業では、ダンスをするための身体づくりをしながら、ダンスの基礎的な技術を学習します。以下の内容を目的に授業を展開していきます。また、グループワークを通してコミュニケーション能力の向上を目標とします。（実際に舞台上で活躍しているプロダンサーによる WS なども予定）リズム感を養い、踊る喜びや楽しさを体得すること目的とします。現代的リズムに合わせてダンスの特徴や身体の構造、実施上の環境や注意点などの理解を深めます。また、基本ステップ、正しい身体の使い方を習得し、表現にあった創作ができるよう発想力や想像力を養います。身体表現を中心とする芸術（創作ダンス）としてのダンスでは、ダンスのテクニックを学ぶとともに自己表現力を身につけます。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(毎時間の w-up、基礎、コンビネーションの説明)			
第2回 フロアーレッスン(ダンステクニックに必要な身体づくり)			
第3回 ダンスステップ(パドブレ、ダブルターン、ジャンプターン応用)			
第4回 リズムと動き(コンビネーション)			
第5回 ダンス基礎テクニック1			
第6回 ダンス基礎テクニック2			
第7回 ダンス基礎テクニック 3			
第8回 ダンス基礎テクニック 4			
第9回 ストリートダンス			
第 10 回 ジャズダンス			
第 11 回 シアターダンス			
第 12 回 グループ創作1			
第 13 回 グループ創作2			
第 14 回 グループ創作3			
第 15 回 グループ発表			
テキスト			
必要に応じ資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
『ダンスの教育学』総監修 松田岩男、監修/編集 松本千代栄、徳間書店、1992 年 11 月			
学生に対する評価			
①授業態度・積極性・協調性(グループワークなど授業内での積極性)60%			
②内容の理解度10%			
③技術力20%			
④その人なりの発展度(いかに真剣に対峙したか)10%			
以上による総合評価を行うため、授業の積極的参加を必要とする。			

シラバス

授業科目名： スポーツ・トレーニングb (トランポリン)		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：中野 孝司 担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		体育		
授業のテーマ及び到達目標 トランポリンは、全身運動である為、身体バランスを鍛えながら、脳内トレーニングもできる運動です。 トランポリン器具を使用してのジャンプは、脳内を活性化して五感の働きが良くなります。また、非日常的な空中動作、感覚的身体運動から、自己のバランス能力や身体支配能力を開発、高めるとともに、技の習得で得た分析能力を将来の一助にしていただけたいと思います。 到達目標は、バッジテスト種目の5級と4級の習得、シャトルゲーム、シンクロ演技の習得				
授業の概要 トランポリン種目の組み合わせや、段階順序の考え方を学ぶとともに、各個人に応じたプログラムや重点配当などの組み立てが可能になるよう学習する。トレーニングと動作改善との結びつきを感じられるようにすることも大切である。				
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 器具の理解、基本姿勢1～6のジャンプ 第3回 抱え跳び、開脚跳び、1/2 捻り跳び、腰落ち～立つ 第4回 基礎技のシリーズ練習、バッジテスト5級のパート別練習 第5回 バッジテスト5級のパート別練習～全習 第6回 バッジテスト4級のパート別練習 第7回 バッジテスト4級のパート別練習～全習 第8回 シンクロ演技の説明と基礎技のシリーズでの実施 第9回 スイブルヒップスのパート別練習 第 10 回 バッジテスト5級でシンクロ演技 第 11 回 バッジテスト4級でシンクロ演技 第 12 回 シャトルゲームの説明と実施 第 13 回 シャトルゲームで対戦 第 14 回 実技試験にむけての練習 第 15 回 シンクロ演技の実技試験 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。				
テキスト なし				
参考書・参考資料等 「公認トランポリン普及指導員資格認定講習会教本」(公財)日本体操協会 「トランポリン競技」大林正憲 著 道和書院				
学生に対する評価 平常点を重視します。(出席率、授業態度など) 実技試験の可否を含みます。				

シラバス

授業科目名： スポーツ・トレーニングb (フットサル)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：朴 成基、北條貴紀 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 近年少人数で楽しめるフットサル人気が定着してきました。¥n ただなんとなくボールを蹴り、汗をかくだけではなく、フットサルをさらに楽しむために必要なスキルを取得しましょう。			
授業の概要 まずフットサルのルールを明確に理解するところから入り、個人としての戦う術、グループとしてのコンビネーション、チームとしての戦略と戦術にまで発展させていきたい。また、相手チームのストロングポイントとウィークポイントを察知し、柔軟かつ大胆に勝利を目指す過程で、フットサルの楽しさを感じてほしい。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 能力測定のためのゲーム 第 3 回 ルールの把握 第 4 回 ボールコントロールの基本 1 第 5 回 ボールコントロールの基本 2 第 6 回 ボールコントロールの基本 3 第 7 回 コンビネーションプレー1 第 8 回 コンビネーションプレー2 第 9 回 コンビネーションプレー3 第 10 回 リスタートの工夫 第 11 回 リーグ戦 1 節 第 12 回 リーグ戦 2 節 第 13 回 リーグ戦 3 節 第 14 回 映像を用いたフットサルの戦術講義 第 15 回 リーグ戦最終節 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。			
テキスト 授業毎にスポーツノートを配布する。			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 授業毎にこちらから配布するスポーツノート提出を義務とします。授業に挑む積極性を評価します。当然 100％出席を求めます。			

シラバス

授業科目名： スポーツ技術a (サッカー)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名: 朴 成基 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 サッカーのファンダメンタルスキル(競技特性上の基本的技術)の向上、戦術を理解、修得し、高いレベルのゲームができるようになることを目的とする。特にアタッキングスキル(ボディーシェイプ、ファーストコントロール、パスの優先順位、サポートの質、トライアングル、クリエイティブスペース)を、「ドリブルかパスか」、「リズムの変化」、「スピードアップのタイミング」、「コミュニケーション」といったテーマとリンクさせながら“サッカーの質”を高めたい。			
授業の概要 まずサッカーのルールを明確に理解するところから入り、個人としての戦う術、グループとしてのコンビネーション、チームとしての戦略と戦術にまで発展させていきたい。また、相手チームのストロングポイントとウィークポイントを察知し、柔軟かつ大胆に勝利を目指す過程で、サッカーの楽しさを感じてほしい。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 能力測定のためのゲーム 第 3 回 身体の向きとファーストコントロール 第 4 回 パスの優先順位 第 5 回 パス and コントロール 第 6 回 ドリブルかパスかの判断 第 7 回 トライアングル(ミラー、サポート、三人目の動き) 第 8 回 トライアングル(オーバーラップ) 第 9 回 トップの動き出しからの突破 1 第 10 回 トップの動き出しからの突破 2 第 11 回 ビルドアップの基本 1 第 12 回 ビルドアップの基本 2 第 13 回 リスタートの攻撃 1 第 14 回 映像を使用したサッカーの戦術講義 第 15 回 仕上げのゲーム 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。			
テキスト 授業毎にスポーツノートを配布する。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 授業毎にこちらから配布するスポーツノート提出を義務とします。授業に挑む積極性を評価します。当然 100％出席を求めます。			

シラバス

授業科目名： スポーツ技術a (バスケットボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：竹野明倫、黒田雄司 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
バスケットボールの様々な技術・知識・IQ を理解、習得することを目標とし、体力健康維持・促進、チームプレー・コミュニケーションを育み、チームスポーツの楽しさ・醍醐味・奥深さを体験してもらう。そして、バスケットボールを通して、個人で力を発揮してシュートを決める楽しさ・チームで作り上げてシュートを決める楽しさ、それらの過程や経験を人生の糧になっていけることを追求する。バスケットボール経験未経験に関わらず皆と関わり合えるようになることを目標とする。バスケットボールを通して、より多くの仲間を作れるようになる。			
授業の概要			
バスケットボールの技術向上、ゲーム形式を中心に進行していく。 1) バスケットボール基礎技術の習得 『パス』: チェストパス、バウンドパス、オーバーヘッドパス、スイベルパス、ワンハンドパス 『ドリブル』: スピードドリブル、クロスオーバードリブル、スルーザレッグ、ビハインドザバック 『シュート』: レイアップ、ジャンプシュート、キャッチアンドシュート 2) 2×2、3×3、5×5ゲームからのチームプレー、戦術理解			
授業計画			
第1回 オリエンテーション・競技特性の説明 ミニゲーム 第2回 個人スキル練習『レイアップ』 ミニゲーム 第3回 個人スキル練習『パス』 ミニゲーム 第4回 個人スキル練習『シュート』 ミニゲーム 第5回 個人スキル練習『ドリブル』 ミニゲーム 第6回 個人スキル練習『レイアップ』 ミニゲーム 第7回 個人スキル練習『パス』 ミニゲーム 第8回 個人スキル練習『ドリブル』 ミニゲーム 第9回 個人スキル練習『シュート』 ミニゲーム 第 10 回 チームスキル練習『2×1、2×2』 ミニゲーム 第 11 回 チームスキル練習『3×2、3×3』 ミニゲーム 第 12 回 チームスキル練習『4×3、4×4』 ミニゲーム 第 13 回 総当たりトーナメント方式でのゲーム 第 14 回 総当たりトーナメント方式でのゲーム 第 15 回 総当たりトーナメント方式でのゲーム			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価			
出席、実技態度、積極性、これらを総合的に評価			

シラバス

授業科目名： スポーツ技術a (バドミントン)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：古藪直樹、白石 晃 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 バドミントンのルールと基本的なショットの習得 チームワークの重要性や競技の楽しさ、喜びの経験			
授業の概要 バドミントンの特徴として、球技の中で打球の初速が最も速く、打球が相手コートに届くまでに空気抵抗を受けて急激に速度が低下するため、初速と終速の差が著しいことやシャトルやラケットが軽量であり、相手との距離が近く球速も速いため、大きなパワーや力を要さずとも緩急をつけたさまざまなショットでゲームを展開することができる。レクリエーションとしては、スマッシュを使わなければ球速が遅く羽により滞空時間も長いため、瞬発力や動体視力はさほど必要とされず、気軽に楽しむことが出来る。本講義では、バドミントンのルールを理解し、基本的なストロークを習得する過程のなかで、技術レベル向上の喜びや競技としての楽しさを体験してもらうとともに、ダブルスでのチームワークに必要なコミュニケーション能力を養ってもらう。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 バドミントンの成り立ちとその特徴 第3回 ルールと審判の方法の説明 第4回 バドミントンラケットでの基本的なスイング動作 第5回 基本ストロークの使い分け 第6回 基本ストロークの紹介と練習①(ハイクリア・ドロップ・プッシュ) 第7回 基本ストロークの紹介と練習②(スマッシュ・ドライブ・ネット・サーブ) 第8回 基本ストロークの使い分け 第9回 試合(シングルス)① 第10回 試合(シングルス)② 第11回 試合(シングルス)③ 第12回 ゲーム練習(ダブルス) 第13回 試合(ダブルス)① 第14回 試合(ダブルス)② 第15回 試合(ダブルス)③ 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせる実施する。			
テキスト 適宜、各授業回で指示を行う。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 平常点：出席点、レポート課題(45%) 実技課題の達成度(55%)			

授業科目名： スポーツ技術a (バレーボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：白石 晃、黒住啓二 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
バレーボールの技能に関する基礎的な理論を学習するとともに、各種の練習プログラムを実践することにより基本技術や戦術を習得する。また、ルールを理解するとともにゲームができる能力を身につける。さらに、これらのことを通して、体力の向上や健康の保持増進に努める習慣を身につけるとともに、生涯にわたりスポーツに親しむ能力や態度を養う。加えて、授業を通して、自己と他者を理解するとともに、友人・多様な人々との協調・協力できる行動力を身につける。			
授業の概要			
授業前半は、生涯スポーツの場面で運用される基本技術を習得とルールを理解できるようにする。授業全体では、ゲームを行う中で基本的戦術の理解と実践能力を高め、自己のチームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて勝敗を競う楽しさを味わえるようにする。(キーワード：生涯スポーツ)			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、ルールと戦術、基本練習①(パス、各種サービス) 第2回：基本練習②(パス、各種サービス)、簡易ルールゲーム① 第3回：基本練習③(パス、各種サービス)、簡易ルールゲーム② 第4回：チーム練習①(スパイク、ブロック)、簡易ルールゲーム③ 第5回：チーム練習②(3段攻撃)、簡易ルールゲーム④ 第6回：チーム練習③(3段攻撃)、簡易ルールゲーム⑤ 第7回：チーム練習④(サーブレシーブ)、簡易ルールゲーム⑥ 第8回：チーム練習⑤(フォーメーション)、簡易ルールゲーム⑦ 第9回：チーム練習⑥(フォーメーション)、公式ルールゲーム① 第10回：チーム練習⑦(フォーメーション)、公式ルールゲーム② 第11回：チーム練習⑧(戦術)、公式ルールゲーム③ 第12回：チーム練習⑨(戦術)、公式ルールゲーム④ 第13回：チーム練習⑩(戦術)、公式ルールゲーム⑤ 第14回：チーム練習⑪(戦術)、公式ルールゲーム⑥ 第15回：チーム練習⑫(実技テスト)、公式ルールゲーム⑦ 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせる実施する。			
テキスト			
必要に応じてプリントを配布。			
参考書・参考資料等			
米山一朋『バレーボール練習メニュー200 』(池田書店) 高梨 泰彦『バレーボールの練習プログラム 』(大修館書店)			
学生に対する評価			
1. 基本技術の習得度、ルールや審判法の理解度、ゲーム中のパフォーマンス、課題提出状況(40 点)、授業に取り組む態度および出席状況等(60 点)を総合的に評価する。 2. 基本技術(パス、サーブ、スパイク)の習得度については実技テストを行い、そのパフォーマンスを「非常に高い(S)」・「高い(A)」・「普通(B)」・「努力を要する(C)」の4段階で採点する。なお、出席状況の評価は下記を基準とする。 S:欠席等がほぼない A:欠席等が1～2回 B:欠席等が2～3回 C:欠席等が3～4回 3. 実技テストを未受験の場合または欠席数が全授業数の3分の1以上の場合は、単位の修得はできない。			

シラバス

授業科目名： スポーツ技術a (卓球)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：古藪 直樹 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 フォアハンド打法、バックハンド打法、サービスなど基本技術の習得と専門的知識を理解する。卓球に必要な基本的用語、ルール、マナーを理解し、セルフジャッジで試合を行うことや積極的に審判を実施することができる。自己と他者の試合や技術の比較から分析し、自己の課題や解決策をみつけ取り組むことができる。主体的に学習へ取り組み、様々な人と積極的に多くの試合をすることができる。			
授業の概要 卓球は、老若男女問わず楽しめるスポーツです。生涯を通して卓球に親しみ、楽しむことが出来るよう、この授業では、実技を中心に卓球のルールと基礎技術を習得します。出来るだけ多くのゲームを行い、仲間と協力して目標を達成することの楽しさとコミュニケーションの重要性についても学んでいきます。			
授業計画 第1回 オリエンテーション(授業の進め方の説明及び用具の取扱いについて) 第2回 ラケットの握り方について 第3回 フォアハンドとバックハンドのイメージ練習 第4回 ボールの回転について感覚練習 第5回 ラリーについて感覚練習 第6回 基本技術練習①(グリップ、フォアハンド打法及びバックハンド打法の実践) 第7回 基本技術練習②(サービス、レシーブの実践) 第8回 基本技術練習③(ミニゲームの進行) 第9回 基本技術練習④(ゲームの進行) 第 10 回 シングルのルールの説明とゲーム 第 11 回 シングルスゲーム 第 12 回 ダブルスのルールの説明とゲーム 第 13 回 ダブルスゲーム 第 14 回 団体戦のルールの説明、チーム分け及びチーム練習 第 15 回 団体戦、まとめ 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。			
テキスト 必要に応じ資料を配布する。			
参考書・参考資料等 日本卓球協会編『卓球コーチング教本』大修館書店			
学生に対する評価 ターゲットゲームやラリーの回数などの技術力 10％ ルールなど内容の理解度30％ 課題への取り組み30％ 授業態度・積極性・協調性(グループワークなど授業内での積極性) 30％ 以上による総合評価を行うため、授業の積極的参加を必要とする。			

授業科目名： スポーツ技術a (BC エクササイズ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：瀧尻勝也、熊谷良一 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 日本古来の身体文化を伝承する中で、本年度、本学にスポーツ特別推薦入試で入学した学生を主な対象に、日本人にしか出来ない身体の合理的な使い方の実践を通して、①こころと身体の再生 ②心身の健全な発達 ③障害予防、競技力向上のための実践的研修とその根拠となる理論の習得 ④自立したアスリートとして社会に貢献できることを目指す。			
授業の概要 自分の身体をよりうまく、効率的に使うことができること、すなわち優れた身体支配力を規律する「身体操作」「身体制御」が可能になると、無駄な力に頼らず、パフォーマンスを向上させることができる。動きの本質は目に見えないところにあり、心と身体が調和して初めて深層筋が機能して、合理的、効率的な動きが可能となり、故障せず、パフォーマンスを向上させることが可能となる。 夢を叶えるためBCトータルバランスシステムの理論と実技を通して、今まで気付かなかった自分自身の能力を再確認し、自分自身の潜在能力を身体を通して体感、その開発を目指す。			
授業計画 第1回 BCTBS 概要 春の BC エクササイズ 身体の上下 第2回 自然界(観)ベーシック1 春の BC エクササイズ 身体の左右 第3回 自然界(観)ベーシック2 夏の BC エクササイズ 身体の上下 第4回 自然界(観)ベーシック3 夏の BC エクササイズ 身体の左右 第5回 自然界(観)ベーシック4 夏の BC エクササイズ 身体の前後 第6回 身体観ベーシック1 夏の BC エクササイズ 上下+左右 第7回 身体観ベーシック2 夏の BC エクササイズ 左右+前後 第8回 身体観ベーシック3 夏の BC エクササイズ 前後+上下 第9回 身体観ベーシック4 夏の BC エクササイズ 上下+左右+前後 第 10 回 身体理論 ベーシック1 秋の BC エクササイズ 身体の上下 第 11 回 身体理論 ベーシック2 秋の BC エクササイズ 身体の左右 第 12 回 身体理論 ベーシック3 秋の BC エクササイズ 身体の前後 第 13 回 身体理論 ベーシック4 秋の BC エクササイズ 上下+左右 第 14 回 身体理論 ベーシック5 秋の BC エクササイズ 左右+前後 第 15 回 前期のまとめ(テスト)			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 必要に応じて、資料(プリント)を配布する。			
学生に対する評価 ①出席日数(最低4分の3以上の出席を求め、それ以下の場合は単位認定しない) ②理論については、原則、毎時間、到達度確認のための小テストを行う。 ③BC エクササイズの到達度評価をするテストを行う。			

シラバス

授業科目名： スポーツ技術b (サッカー)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名: 朴 成基 担当形態: 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 この科目では特にサッカーのディフェンスの戦術について理解を深めていくことを目的とする。相手のボールをどのような方法で奪い、攻撃に繋げていくにはどうしたらいいかということをテーマにして、そのためのアプローチ(プレスのかけ方とステップワーク)、ボールへのチャレンジの原則と脚の出し方、チャレンジとカバーの同時性といった個人戦術+グループ戦術上の課題と、チームとしてどのようにプレスをかけていくか、そのためのディフェンスラインの操作、相手のサイドチェンジへの対応(スウィング、スライド)、リスタートの守備といったチーム戦術上の課題にまで取り組んでいきたい。			
授業の概要 まずサッカーのルールを明確に理解するところから入り、個人としての戦う術、グループとしてのコンビネーション、チームとしての戦略と戦術にまで発展させていきたい。また、相手チームのストロングポイントとウィークポイントを察知し、柔軟かつ大胆に勝利を目指す過程で、サッカーの楽しさを感じてほしい。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス 第 2 回 能力測定のためのゲーム 第 3 回 マークの原則 第 4 回 クロスの対応 第 5 回 アプローチとストップ動作、ボールへのチャレンジ、そしてカバー 第 6 回 マークの受け渡し 第 7 回 リトリート 第 8 回 スウィング 第 9 回 チームとしてのプレッシング 1 第 10 回 チームとしてのプレッシング 2 第 11 回 ディフェンスラインコントロール 1 第 12 回 ディフェンスラインコントロール 2 第 13 回 リスタートに対する守備 1 第 14 回 リスタートに対する守備 2 第 15 回 仕上げのゲーム 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。			
テキスト 授業毎にスポーツノートを配布する。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 授業毎にこちらから配布するスポーツノート提出を義務とします。授業に挑む積極性を評価します。当然 100%出席を求めます。			

シラバス

授業科目名： スポーツ技術b (バスケットボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：竹野明倫、黒田雄司 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 バスケットボールの様々な技術・知識・IQ を理解、習得することを目標とし、体力健康維持・促進、チームプレー・コミュニケーションを育み、チームスポーツの楽しさ・醍醐味・奥深さを体験してもらう。そして、バスケットボールを通して、個人で力を発揮してシュートを決める楽しさ・チームで作り上げてシュートを決める楽しさ、それらの過程や経験を人生の糧になっていけることを追求する。バスケットボール経験未経験に関わらず皆と関わり合えるようになることを目標とする。バスケットボールを通して、より多くの仲間を作れるようになる。			
授業の概要 バスケットボールの技術向上、ゲーム形式を中心に進行していく。 1)バスケットボール基礎技術の習得 『パス』:チェストパス、バウンドパス、オーバーヘッドパス、スイベルパス、ワンハンドパス 『ドリブル』:スピードドリブル、クロスオーバードリブル、スルーザレッグ、ビハインドザバック 『シュート』:レイアップ、ジャンプシュート、キャッチアンドシュート 2)2×2、3×3、5×5ゲームからのチームプレー、戦術理解			
授業計画 第1回 オリエンテーション・競技特性の説明 ミニゲーム 第2回 個人スキル練習『レイアップ』 ミニゲーム 第3回 個人スキル練習『パス』 ミニゲーム 第4回 個人スキル練習『シュート』 ミニゲーム 第5回 個人スキル練習『ドリブル』 ミニゲーム 第6回 個人スキル練習『レイアップ』 ミニゲーム 第7回 個人スキル練習『パス』 ミニゲーム 第8回 個人スキル練習『ドリブル』 ミニゲーム 第9回 個人スキル練習『シュート』 ミニゲーム 第 10 回 チームスキル練習『2×1、2×2』 ミニゲーム 第 11 回 チームスキル練習『3×2、3×3』 ミニゲーム 第 12 回 チームスキル練習『4×3、4×4』 ミニゲーム 第 13 回 総当たりトーナメント方式でのゲーム 第 14 回 総当たりトーナメント方式でのゲーム 第 15 回 総当たりトーナメント方式でのゲーム			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 必要に応じて紹介する。			
学生に対する評価 出席、実技態度、積極性、これらを総合的に評価			

シラバス

授業科目名： スポーツ技術b (バドミントン)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：古藪直樹、白石 晃 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 バドミントンのルールの理解と基本的なショットの習得 チームワークの重要性や競技の楽しさ、喜びの経験			
授業の概要 バドミントンの特徴として、球技の中で打球の初速が最も速く、打球が相手コートに届くまでに空気抵抗を受けて急激に速度が低下するため、初速と終速の差が著しいことやシャトルやラケットが軽量であり、相手との距離が近く球速も速いため、大きなパワーや力を要さずとも緩急をつけたさまざまなショットでゲームを展開することができる。レクリエーションとしては、スマッシュを使わなければ球速が遅く羽により滞空時間も長いため、瞬発力や動体視力はさほど必要とされず、気軽に楽しむことが出来る。本講義では、バドミントンのルールを理解し、基本的なストロークを習得する過程のなかで、技術レベル向上の喜びや競技としての楽しさを体験してもらうとともに、ダブルスでのチームワークに必要なコミュニケーション能力を養ってもらう。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 バドミントンの成り立ちとその特徴 第3回 ルールと審判の方法の説明 第4回 バドミントンラケットでの基本的なスイング動作 第5回 基本ストロークの使い分け 第6回 基本ストロークの紹介と練習①(ハイクリア・ドロップ・プッシュ) 第7回 基本ストロークの紹介と練習②(スマッシュ・ドライブ・ネット・サーブ) 第8回 基本ストロークの使い分け 第9回 試合(シングルス)① 第10回 試合(シングルス)② 第11回 試合(シングルス)③ 第12回 ゲーム練習(ダブルス) 第13回 試合(ダブルス)① 第14回 試合(ダブルス)② 第15回 試合(ダブルス)③ 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。			
テキスト 適宜、各授業回で指示を行う。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 平常点：出席点、レポート課題(45%) 実技課題の達成度(55%)			

授業科目名: スポーツ技術b (バレーボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:白石 晃、黒住啓二 担当形態:クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
バレーボールの技能に関する基礎的な理論を学習するとともに、各種の練習プログラムを実践することにより基本技術や戦術を習得する。また、ルールを理解するとともにゲームができる能力を身につける。さらに、これらのことを通して、体力の向上や健康の保持増進に努める習慣を身につけるとともに、生涯にわたりスポーツに親しむ能力や態度を養う。加えて、授業を通して、自己と他者を理解するとともに、友人・多様な人々との協調・協力できる行動力を身につける。			
授業の概要			
授業前半は、生涯スポーツの場面で運用される基本技術を習得とルールを理解できるようにする。授業全体では、ゲームを行う中で基本的戦術の理解と実践能力を高め、自己のチームや相手チームの特徴に応じた作戦を立てて勝敗を競う楽しさを味わえるようにする。(キーワード:生涯スポーツ)			
授業計画			
第1回:オリエンテーション、ルールと戦術、基本練習①(パス、各種サービス) 第2回:基本練習②(パス、各種サービス)、簡易ルールゲーム① 第3回:基本練習③(パス、各種サービス)、簡易ルールゲーム② 第4回:チーム練習①(スパイク、ブロック)、簡易ルールゲーム③ 第5回:チーム練習②(3段攻撃)、簡易ルールゲーム④ 第6回:チーム練習③(3段攻撃)、簡易ルールゲーム⑤ 第7回:チーム練習④(サーブレシーブ)、簡易ルールゲーム⑥ 第8回:チーム練習⑤(フォーメーション)、簡易ルールゲーム⑦ 第9回:チーム練習⑥(フォーメーション)、公式ルールゲーム① 第10回:チーム練習⑦(フォーメーション)、公式ルールゲーム② 第11回:チーム練習⑧(戦術)、公式ルールゲーム③ 第12回:チーム練習⑨(戦術)、公式ルールゲーム④ 第13回:チーム練習⑩(戦術)、公式ルールゲーム⑤ 第14回:チーム練習⑪(戦術)、公式ルールゲーム⑥ 第15回:チーム練習⑫(実技テスト)、公式ルールゲーム⑦ 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせる実施する。			
テキスト			
必要に応じてプリントを配布。			
参考書・参考資料等			
米山一朋『バレーボール練習メニュー200 』(池田書店) 高梨 泰彦『バレーボールの練習プログラム 』(大修館書店)			
学生に対する評価			
1. 基本技術の習得度、ルールや審判法の理解度、ゲーム中のパフォーマンス、課題提出状況(40 点)、授業に取り組む態度および出席状況等(60 点)を総合的に評価する。 2. 基本技術(パス、サーブ、スパイク)の習得度については実技テストを行い、そのパフォーマンスを「非常に高い(S)」・「高い(A)」・「普通(B)」・「努力を要する(C)」の4段階で採点する。なお、出席状況の評価は下記を基準とする。 S:欠席等がほぼない A:欠席等が1～2回 B:欠席等が2～3回 C:欠席等が3～4回 3. 実技テストを未受験の場合または欠席数が全授業数の3分の1以上の場合は、単位の修得はできない。			

授業科目名： スポーツ技術b (卓球)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：光安知佳子 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
1) フォアハンド打法、バックハンド打法、サービスなど基本技術を習得する。 2) 卓球に必要な基本的用語、ルール、マナーを理解している。 3) セルフジャッジで試合を行うことができる。			
授業の概要			
卓球は、老若男女問わず楽しめるスポーツです。生涯を通して卓球に親しみ、楽しむことが出来るよう、この授業では、実技を中心に卓球のルールと基礎技術を習得します。出来るだけ多くのゲームを行い、仲間と協力して目標を達成することの楽しさとコミュニケーションの重要性についても学んでいきます。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション(授業の進め方の説明及び用具の取扱いについて) 第2回 ラケットの握り方について 第3回 フォアハンドとバックハンドのイメージ練習 第4回 ボールの回転について感覚練習 第5回 ラリーについて感覚練習 第6回 基本技術練習①(グリップ、フォアハンド打法及びバックハンド打法の実践) 第7回 基本技術練習②(サービス、レシーブの実践) 第8回 基本技術練習③(ミニゲームの進行) 第9回 基本技術練習④(ゲームの進行) 第 10 回 シングルのルールの説明とゲーム 第 11 回 シングルスゲーム 第 12 回 ダブルスのルールの説明とゲーム 第 13 回 ダブルスゲーム 第 14 回 団体戦のルールの説明、チーム分け及びチーム練習 第 15 回 団体戦、まとめ 上記概要に基づき、講義と実技を組み合わせ実施する。			
テキスト			
必要に応じ資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
日本卓球協会編『卓球コーチング教本』大修館書店			
学生に対する評価			
①授業態度・積極性・協調性(グループワークなど授業内での積極性)30％ ②ルールなど内容の理解度30％ ③ターゲットゲームやラリーの回数などの技術力 10％ ④授業課題30％ 以上による総合評価を行うため、授業の積極的参加を必要とする。			

シラバス

授業科目名: スポーツ技術b (BC エクササイズ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名:矢田竜也、宮田彰二 担当形態: クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
日本古来の身体文化を伝承する中で、本年度、本学にスポーツ特別推薦入試で入学した学生を主な対象に、日本人にしか出来ない身体の合理的な使い方の実践を通して、①こころと身体の再生 ②心身の健全な発達 ③障害予防、競技力向上のための実践的研修とその根拠となる理論の習得 ④自立したアスリートとして社会に貢献できることを目指す。			
授業の概要			
自分の身体をよりうまく、効率的に使うことができること、すなわち優れた身体支配力を規律する「身体操作」「身体制御」が可能になると、無駄な力に頼らず、パフォーマンスを向上させることができる。動きの本質は目に見えないところにあり、心と身体が調和して初めて深層筋が機能して、合理的、効率的な動きが可能となり、故障せず、パフォーマンスを向上させることが可能となる。 夢を叶えるためBCトータルバランスシステムの理論と実技を通して、今まで気付かなかった自分自身の能力を再確認し、自分自身の潜在能力を身体を通して体感、その開発を目指す。			
授業計画			
第1回	自然界(観)アドバンス1	秋の BC エクササイズ	前後＋上下
第2回	自然界(観)アドバンス2	秋の BC エクササイズ	上下＋左右＋前後
第3回	自然界(観)アドバンス3	冬の BC エクササイズ	身体の上下
第4回	自然界(観)アドバンス4	冬の BC エクササイズ	身体の左右
第5回	身体観アドバンス1	冬の BC エクササイズ	身体の前後
第6回	身体観アドバンス2	冬の BC エクササイズ	上下＋左右
第7回	身体観アドバンス3	冬の BC エクササイズ	左右＋前後
第8回	身体観アドバンス4	冬の BC エクササイズ	前後＋上下
第9回	身体観アドバンス5	冬の BC エクササイズ	上下＋左右＋前後
第 10 回	身体理論 アドバンス1	春の BC エクササイズ	身体の前後
第 11 回	身体理論 アドバンス2	春の BC エクササイズ	上下＋左右
第 12 回	身体理論 アドバンス3	春の BC エクササイズ	左右＋前後
第 13 回	身体理論 アドバンス4	春の BC エクササイズ	前後＋上下
第 14 回	身体理論 アドバンス5	春の BC エクササイズ	上下＋左右＋前後
第 15 回	後期のまとめ(テスト)		
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
必要に応じて、資料(プリント)を配布する。			
学生に対する評価			
①出席日数(最低4分の3以上の出席を求め、それ以下の場合は単位認定しない)			
②理論については、原則、毎時間、到達度確認のための小テストを行う。			
③BC エクササイズの到達度評価をするテストを行う。			

授業科目名： 英語 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：白石治恵ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 2 年次以降の学生が各自の方向性に合った様々な英語の自修に応用できるよう、英語の読解と表現・文法の基礎力の定着を到達目標とする。英語基礎力を身につけることで、卒業までに必要な「汎用的技能」を身につけ、外国語を用いて、読み、書き、聞き、話す能力を深める。			
授業の概要 日本語を母語とする教員が、教科書を用いて英語の音韻、読解方法、文法の基礎を解説する。さらにクラスの学生に合った副教材を用いて、英語の多様性を学習する。			
授業計画 第 1 回 講義の概要、授業の進め方、評価方法についてのガイダンス 第 2 回 Unit 1 品詞(8 品詞/句/節) 第 3 回 Unit 2 動詞(自動詞・他動詞/5 文型/自動詞と誤りやすい他動詞/他動詞と誤りやすい自動詞) 第 4 回 Unit 3 基本時制(現在時制/過去時制/未来時制) 第 5 回 Unit 4 句動詞(動詞＋副詞、動詞＋前置詞、動詞＋名詞[副詞]＋前置詞) 第 6 回 Unit 5 進行形(進行形にできない動詞/現在・過去・未来進行形) 第 7 回 Unit 1 ～5 のまとめ 第 8 回 Unit 6 完了形(現在・過去・未来完了形/現在完了進行形) 第 9 回 Unit 7 助動詞(心理状態を表す助動詞/助動詞と同じ働きをする語句/助動詞＋完了形) 第 10 回 Unit 8 名詞・冠詞(数えないと使えない名詞・数えてはいけない名詞/不定冠詞/定冠詞/無冠詞) 第 11 回 Unit 9 代名詞(it の注意すべき用法/we, you, they の特殊用法/one, that, those/‑one, ‑body, ‑self) 第 12 回 Unit 10 形容詞・副詞(注意すべき形容詞/注意すべき形容詞と同形の副詞) 第 13 回 Unit 1 ～10 のまとめ 第 14 回 まとめ及び確認テスト 第 15 回 確認テスト振り返り、総まとめ			
テキスト 『読解と表現をめざす基礎文法』小中秀彦編著、朝日出版社。 副教材は、授業内で随時配布する。			
参考書・参考資料等 各社英和辞典(電子辞書でも可)			
学生に対する評価 授業参加度・課題＝60％ 学級内試験＝40％ TOEIC 345 以上を取得すれば、申請を経て、単位認定が可能である。			

授業科目名： 英語2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：白石治恵ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
2 年次以降の学生が各自の方向性に合った様々な英語の自修に応用できるよう、英語の読解と表現・文法の基礎力の定着を到達目標とする。英語基礎力を身につけることで、卒業までに必要な「汎用的技能」を身に着け、外国語を用いて、読み、書き、聞き、話す能力を深める。			
授業の概要			
日本語を母語とする教員が、教科書を用いて英語の音韻、読解方法、文法の基礎を解説する。さらにクラスの学生に合った副教材を用いて、英語の多様性を学習する。			
授業計画			
第 1 回 授業方法の確認と英語 1 のふりかえり			
第 2 回 Unit 11 前置詞(「時」「場所」「その他」を表す前置詞/群前置詞)			
第 3 回 Unit 12 受動態(能動態と受動態/by 以外の前置詞を使う受動態/be 動詞以外の動詞＋過去分詞、他)			
第 4 回 Unit 13 不定詞(to 不定詞/原形不定詞/to 不定詞のみを目的語にとる動詞/注意すべき表現)			
第 5 回 Unit 14 動名詞(動名詞のみを目的語にとる動詞/to 不定詞と動名詞を目的語にとる動詞、他)			
第 6 回 Unit 15 分詞(限定用法/叙述用法/分詞構文)			
第 7 回 Unit 11 ～ 15 のまとめ			
第 8 回 Unit 16 否定(表し方/準否定/部分否定/慣用表現)			
第 9 回 Unit 17 比較(原級/比較級/最上級)			
第 10 回 Unit 18 関係詞(関係代名詞/what/関係副詞/制限用法・非制限用法)			
第 11 回 Unit 19 接続詞(等位接続詞/名詞節を導く従位接続詞/副詞節を導く従位接続詞/相関接続詞・群接続詞)			
第 12 回 Unit 20 仮定法(仮定法過去/仮定法過去完了/仮定法現在/慣用表現)			
第 13 回 Unit 11～20 のまとめ			
第 14 回 まとめ及び確認テスト			
第 15 回 確認テスト振り返り、総まとめ			
テキスト			
『読解と表現をめざす基礎文法』小中秀彦編著、朝日出版社。 副教材は、授業内で随時配布する。			
参考書・参考資料等			
各社英和辞典(電子辞書でも可)			
学生に対する評価			
授業参加度・課題＝60％ 学級内試験＝40％ TOEIC 345 以上を取得すれば、申請を経て、単位認定が可能である。			

シラバス

授業科目名: 英語3	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1 単位	担当教員名:Hershey Wier、 Robert B. Sanderson ほか 担当形態: クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 日常生活程度の英文を聴き取り、また、発話するための音韻(音素とリエゾン・音節・第一強勢・文章抑揚など)、及び基本文型の応用の基礎を学ぶ。また教員やクラスメートと発話練習をする。これにより卒業までに必要な「汎用的技能」を身に付け、外国語を用いて、読み、書き、聞き、話す能力を深める。			
授業の概要 英語圏出身者の指導により、可能な限り日本語を使わず、英語の音韻に慣れ、聴解力と発話の訓練を受ける。発話を聴き取り、文法規則に従った文章を作成し、適切な音韻で返答し、意思を伝える練習を行う。			
授業計画 第 1 回 授業の進め方の解説、その他 第 2 回 Unit 1: Introductions 第 3 回 綴りと音韻 第 4 回 be-動詞と一般動詞・5文型 第 5 回 人称代名詞 第 6 回 Unit 2: Countries 第 7 回 音節と第一強勢 第 8 回 時・場所の副詞句 第 9 回 疑問文・助動詞 第 10 回 Unit 3: Possessions 第 11 回 子音と母音の連結 第 12 回 冠詞、可算・不可算名詞、名詞句 第 13 回 名詞と形容詞 第 14 回 Review: Units 1-3 第 15 回 まとめ、確認テスト			
テキスト World LINK: Intro, Combo Split A, Susan Stempleski (Cengage) 第 3 版			
参考書・参考資料等 各社英和・和英辞書			
学生に対する評価 授業参加度(平常点評価): 毎回出席し、講師の指示に従って、他の学生の迷惑にならない範囲で可能な限り発声・発話を行う。授業中のパフォーマンスとテスト結果が評価の対象となる。			

シラバス

授業科目名： 英語4	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：Hershey Wier、 Robert B. Sanderson ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
日常生活程度の英文を聴き取り、また、発話するための音韻(音素とリエゾン・音節・第一強勢・文章抑揚など)、及び基本文型の応用の基礎を学ぶ。また教員やクラスメートと発話練習をする。これにより卒業までに必要な「汎用的技能」を身に付け、外国語を用いて、読み、書き、聞き、話す能力を深める。			
授業の概要			
英語圏出身者の指導により、可能な限り日本語を使わず、英語の音韻に慣れ、聴解力と発話の訓練を受ける。発話を聴き取り、文法規則に従った文章を作成し、適切な音韻で返答し、意思を伝える練習を行う。			
授業計画			
第 1 回 授業の進め方の解説、その他			
第 2 回 Unit 4: Activities			
第 3 回 抑揚(昇調・降調)			
第 4 回 現在進行形			
第 5 回 自動詞・他動詞			
第 6 回 Unit 5: Food			
第 7 回 弱音節の音			
第 8 回 単純現在時制			
第 9 回 補助動詞			
第 10 回 Unit 6: Relationships			
第 11 回 音韻と文法			
第 12 回 所有形容詞			
第 13 回 命令形と条件節			
第 14 回 Review: Units 4-6			
第 15 回 まとめ、確認テスト			
テキスト			
World LINK: Intro, Combo Split A, Susan Stempleski (Cengage) 第 3 版			
参考書・参考資料等			
各社英和・和英辞書			
学生に対する評価			
授業参加度(平常点評価)：毎回出席し、講師の指示に従って、他の学生の迷惑にならない範囲で可能な限り発声・発話を行う。授業中のパフォーマンスとテスト結果が評価の対象となる。			

授業科目名: 中国語1		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1 単位	担当教員名:蔡 明哲、穴澤彰子、 金 路、宋 健
		担当形態: クラス分け・単独		
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
<p>「中国語1」は入門レベルの中国語の授業である。この授業は発音訓練と会話訓練と文法練習の三つの部分で構成する。また、この授業は複数のクラスがあるので、ここで授業の主要内容だけ紹介し、各クラスの授業の進め方の詳細については、各クラスの担当者が最初の授業のとき紹介する。</p> <p>発音部分の到達目標は①学生が子音・母音を習得する。②学生が有気音と無気音を区別できる、③学生が捲舌音を理解する、の三つのパーツで構成する。総じていうと、受講者はピンインを介して簡単な中国語の単語と文章を発音できることはこの授業の目標とする。</p> <p>文法訓練の到達目標は次の通りである。①学生が中国語と日本語の文法構造の違いの概略を理解する。②学生が主語・述語・目的語・定語・状語の基本を理解する。</p> <p>会話練習の到達目標は①学生が授業計画にある基本文型を習得する。②学生が初対面や挨拶・基本生活用の中国語の習得を目標とする。</p>				
授業の概要				
<p>この授業の初期段階においては、受講者は基礎的な発音練習をしっかり行ってほしい。このため、授業は子音・母音と有気音と無気音を習得する。その練習素材として、挨拶語、数字、親族の呼び方などを使う。初歩的な発音を習得しても、その後の授業で毎回発音練習をし、普段使わない発音筋肉を鍛え、徐々に正確な発音を身に着ける。受講者は「ピンイン」をみて正確な発音ができるようになるまでしっかり練習してもらおう。授業の詳細は各クラスの担当者が明確に受講生に説明する。</p>				
授業計画				
第1回:中国語の概要 第2回:基礎発音練習:母音 第3回:基礎発音練習:子音と四声 第4回:基礎発音練習:有気音と無気音の区別の説明と練習 第5回:基礎発音練習:「zh・ch・sh・r」の説明と練習 第6回:発音練習のまとめ・「A 是 B 文」の説明 第7回:「A 是 B」文の練習・の練習、有気音と無気音の聞き分け練習。 第8回:述語と動詞述語文の説明・簡単な動詞述語文の練習(1)文法の説明 第9回:述語と動詞述語文の説明・簡単な動詞述語文の練習(2)会話・作文練習、第二声と第四声の区別。 第10回:目的語・動詞と目的語の関係 第11回:形容詞と形容詞述語文。軽声の強化練習と「er」の発音の説明。 第12回:「私が忙しい」を中国語に訳したら→日本語と中国語の形容詞述語文の区別 第13回:日本語と中国語の形容詞述語文の区別の強化練習。zh、ch、sh の発音の強化練習。 第14回:中国語における否定表現→「不」と「没」の区別 第15回:「不」と「没」の強化練習・「没有(もっていない)」の練習、少し長い文の発音練習。				
テキスト				
ガイダンスで指示する。				
参考書・参考資料等				
ガイダンスで指示する。				
学生に対する評価				
授業中の練習の状況(30%)、宿題の完成の状況(20%)、各種のテスト(50%)で総合的に評価する。小テストを定期的に行う。詳細については、各クラスの担当者がガイダンスで説明する。				

授業科目名: 中国語2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1 単位	担当教員名: 蔡 明哲、穴澤彰子、 金 路、宋 健
			担当形態: クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>「中国語 2」は「中国語 1」に続く入門レベルの中国語の授業である。この授業は「中国語 1」と同様、発音訓練と会話訓練と文法練習の三つの部分で構成する。</p> <p>発音部分の到達目標は①学生が子音・母音を習得する。②学生が有気音と無気音を区別できる、③学生が捲舌音を理解する、の三つのパーツで構成する。総じていうと、受講者はピンインを介して簡単な中国語の単語と文章を発音できることはこの授業の目標とする。</p> <p>文法訓練の到達目標は次の通りである。①学生が中国語と日本語の文法構造の違いの概略を理解する。②学生が主語・述語・目的語・定語・状語の基本を理解する。</p> <p>会話練習の到達目標は①学生が授業計画にある基本文型を習得する。②学生が初対面や挨拶・基本生活用の中国語の習得を目標とする。</p>			
授業の概要			
<p>生活中よく使われる文を使い、基本的な文法を解説し、その中のもっとも大事な文型を繰り返して練習し、特に「発音」と「ヒヤリング」を重点にして、受講者にこれらの内容を習得してもらう。この練習は会話形式の練習をする同時、受講者が中国語の漢字と日本語の漢字との区別などを理解できる作文練習も重視し授業をすすめたい。授業の詳細は各クラスの担当者が明確に受講生に説明する。</p>			
授業計画			
第 1 回 完了を表す「了」・動作や状態の継続時間			
第 2 回 場所を示す指示代名詞・存在を表す「在」			
第 3 回 介詞・動詞の重ね型			
第 4 回 比較			
第 5 回 選択疑問文・程度補語			
第 6 回 方向補語			
第 7 回 持続を表す「着」			
第 8 回 結果補語			
第 9 回 動作の進行			
第 10 回 可能を表す助動詞			
第 11 回 方向詞			
第 12 回 条件・仮定を表す「了」			
第 13 回 様態補語			
第 14 回 中国語 2 まとめ			
第 15 回 まとめ及び確認テスト			
テキスト			
ガイドダンスで指示する。			
参考書・参考資料等			
ガイドダンスで指示する。			
学生に対する評価			
授業中の練習の状況(30%)、宿題の完成の状況(20%)、各種のテスト(50%)で総合的に評価する。小テストを定期的に行う。詳細については、各クラスの担当者がガイドダンスで説明する。			

シラバス

授業科目名: ドイツ語1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 1 単位	担当教員名:三宅博子、假谷祥子、 細川裕史
			担当形態: クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
ドイツ語に関する知識が0の状態から、ドイツ語検定4級レベルで問われるていどの文法知識と、簡単なあいさつや買い物が行えるていどの会話力を身につけることを目標とする。そのために、基礎的な文法知識および(受講生にとって身近な物事を表す)基礎単語を習得する。前期は、ドイツ語の基礎となる動詞および冠詞の変化をマスターすることを、後期は前置詞や助動詞などを学び、より複雑な表現を理解できるようになることを目標とする。			
授業の概要			
文法的な知識の学習は最低限度におさえ、各受講生が「ドイツ語を使ってみる」機会を多く設ける。そのため、例文等には各受講生にとって身近なテーマを選び、また、理解を促進するため、授業で学んだ知識を使ってドイツ語の文を作る練習をくりかえす。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 第2回 ドイツ語とは 第3回 アルファベートと発音 第4回 ドイツ語で自己紹介 第5回 sein 第6回 決まった変化をする動詞 第7回 決まった変化をする動詞の練習 第8回 変わった変化をする動詞 第9回 haben、werden、wissen 第 10 回 変わった変化をする動詞の練習 第 11 回 定冠詞 第 12 回 定冠詞類 第 13 回 冠詞(類)の練習 第 14 回 まとめ 第 15 回 確認テストと解説			
テキスト			
溝井高志ほか(2017)『ドイツ語で話してみよう!』三修社			
参考書・参考資料等			
担当者が適宜指示する。			
学生に対する評価			
平常点(受講姿勢および小テスト)50%＋期末の確認テスト50%。 講義回数の3分の1を超える欠席は不可。			

授業科目名： ドイツ語2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：三宅博子、假谷祥子、 細川裕史
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
ドイツ語に関する知識が0の状態から、ドイツ語検定4級レベルで問われるていどの文法知識と、簡単なあいさつや買い物が行えるていどの会話を身につけることを目標とする。そのために、基礎的な文法知識および(受講生にとって身近な物事を表す)基礎単語を習得する。前期は、ドイツ語の基礎となる動詞および冠詞の変化をマスターすることを、後期は前置詞や助動詞などを学び、より複雑な表現を理解できるようになることを目標とする。			
授業の概要			
「ドイツ語 1」に引き続き、文法的な知識の学習は最低限度におさえ、各受講生が「ドイツ語を使ってみる」機会を多く設ける。そのため、例文等には各受講生にとって身近なテーマを選び、また、理解を促進するため、授業で学んだ知識を使ってドイツ語の文を作る練習をくりかえす。			
授業計画			
第 1 回 ドイツ語 1 のおさらい(動詞)			
第 2 回 ドイツ語 1 のおさらい(冠詞)			
第 3 回 不定冠詞			
第 4 回 不定冠詞類			
第 5 回 不定冠詞(類)の練習			
第 6 回 人称代名詞			
第 7 回 人称代名詞の練習			
第 8 回 前置詞			
第 9 回 前置詞の練習			
第 10 回 助動詞			
第 11 回 助動詞の練習			
第 12 回 会話練習1			
第 13 回 会話練習2			
第 14 回 まとめ			
第 15 回 確認テストと解説			
テキスト			
溝井高志ほか(2017)『ドイツ語で話してみよう！』 三修社			
参考書・参考資料等			
担当者が適宜指示する。			
学生に対する評価			
平常点(受講姿勢および小テスト)50%＋期末の確認テスト 50%。 講義回数の3分の1を超える欠席は不可。			

シラバス

授業科目名： フランス語 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：真田桂子、仲井秀昭、 鄭 久信
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 大学1回生で初めてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の文法の基礎の習得を中心に、簡単な短文の読解も含めて集中的に学習する。初級といえども、発音や文法の構造から日常的な表現にいたるまで、明快さと簡潔さを旨とするフランス語の言語的な背景も含め、幅広く学習することをめざす。			
授業の概要 フランス語1のすべてのクラスで教科書を統一し同じものを用いる。授業の進め方は各クラスの担当者の方針で行う。進度はあくまで学生の理解度に合わせるが、アルファベから始まってフランス語の文法の基本的な事項についてまんべんなく、複合過去までを習得することをめざす。			
授業計画 第 1 回 はじめに、フランス語1を学ぶためのオリエンテーション 第 2 回 アルファベ、フランス語のつづり字と発音 第 3 回 1 課 バリ到着 ?tre の活用、名詞の性と数、数詞1 第 4 回 1 課 つづき、練習問題 第 5 回 2 課 ホテルで avoir の活用、不定冠詞、定冠詞、形容詞の性・数の一致 第 6 回 2 課 つづき、練習問題 第 7 回 3 課 ランデヴー、第一群規則動詞、所有形容詞、疑問文 第 8 回 3 課 つづき、練習問題 第 9 回 これまでのまとめと復習 第 10 回 フランスの文化1 第 11 回 4 課 カフェで 形容詞の位置、形容詞の女性形と名詞の複数形、否定文 第 12 回 4 課 つづき、練習問題 第 13 回 5 課 電話をかける 指示形容詞、定冠詞の縮約、近い過去・近い未来 第 14 回 5 課 つづき、練習問題 第 15 回 6 課 道を尋ねる 疑問代名詞、疑問副詞、中性代名詞			
テキスト 『新・彼女は食いしん坊！1—WEB でサポート』藤田裕二著、朝日出版社			
参考書・参考資料等 1. 授業中に配布するプリント 2. 仏和辞典（授業中に指示します）			
学生に対する評価 成績は、課題や練習問題などの普段の授業への取り組みや提出物などを考慮した平常点(50 点)、特にほぼ隔週で行うチェックドリル(50％)の結果などを総合的に判断して評価します。			

シラバス

授業科目名： フランス語2		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 1 単位		担当教員名：真田桂子、仲井秀昭、 鄭 久信	
						担当形態： クラス分け・単独	
科 目			教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目				
施行規則に定める 科目区分又は事項等			外国語コミュニケーション				
授業のテーマ及び到達目標							
フランス語 1 に引き続き、初めてフランス語を学ぶ学生を対象に、フランス語の文法の基礎の習得を中心に、簡単な短文の読解も含めて集中的に学習する。初級といえども、発音や文法の構造から日常的な表現にいたるまで、明快さと簡潔さを旨とするフランス語の言語的な背景も含め、幅広く学習することをめざす。							
授業の概要							
フランス語1と同じ教科書を用いる。授業の進め方は各クラスの担当者の方針で行う。進度はあくまで学生の理解度に合わせるが、アルファベから始まってフランス語の文法の基本的な事項についてまんべんなく、複合過去までを習得することをめざす。							
授業計画							
第 1 回 フランス語 1 既習内容確認							
第 2 回 市場での買い物							
第 3 回 部分冠詞・数量表現・中性代名詞							
第 4 回 サッカー観戦							
第 5 回 疑問形容詞・命令形・非人称構文							
第 6 回 デパートで							
第 7 回 指示代名詞・比較級・最上級・数詞							
第 8 回 紹介する							
第 9 回 補語人称代名詞・代名動詞							
第 10 回 旅の話をする							
第 11 回 複合過去形・過去を表す状況補語							
第 12 回 別れを言う							
第 13 回 単純未来形・未来を表す状況補語							
第 14 回 既習項目総復習							
第 15 回 まとめ、到達度確認テスト							
テキスト							
『新・彼女は食いしん坊！1—WEB でサポート』藤田裕二著、朝日出版社							
参考書・参考資料等							
1. 授業中に配布するプリント							
2. 仏和辞典（授業中に指示します）							
学生に対する評価							
成績は、課題や練習問題などの普段の授業への取り組みや提出物などを考慮した平常点(50 点)、特にほぼ隔週で行うチェックドリル(50%)の結果などを総合的に判断して評価します。							

シラバス

授業科目名： AI・データサイエンス総論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：前田利之
				担当形態： 単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標				
AI (Artificial Intelligence, 人工知能)やロボットの技術向上により、20 年後には、日本では労働人口の約半数が、AI やロボットに代替できるとする研究が発表されている。このような時代に、どんな力を身につけ、キャリアを築いていけば良いであろうか？本講義では、今、着目されている、AI、データサイエンス、ロボティクス、IoT 等の新しい技術を理解すると同時に、新しい技術を使いこなし、社会や身の回りの課題の解決策を考える力を養うことを目標とする。				
授業の概要				
まず AI・データサイエンスを概観し、そののち各論として具体的な適用例を通じて、データの活用などの技術的側面に加えて、社会への影響、倫理的側面などを幅広く学ぶ。				
授業計画				
第 1 回 導入(1): 本学での取り組み、AI とデータサイエンス				
第 2 回 導入(2): AI・データサイエンス基盤としてのコンピュータ入門				
第 3 回 AI 入門: AI とはなにものか、AI の歴史、AI が出来ること				
第 4 回 データサイエンス入門: データサイエンスとデータマイニング				
第 5 回 AI と働くということ(文系 AI)				
第 6 回 「東ロボくん」を通じた AI 論				
第 7 回 AI と創作(1...「ばいどん」)				
第 8 回 AI と創作(2...「AI 美空ひばり」での創作への挑戦)				
第 9 回 AI と創作(3...「AI 美空ひばり」と倫理的議論)				
第 10 回 AI と学習データ				
第 11 回 AI と移動(自動運転、VR・AR)				
第 12 回 AI と会話(共感)				
第 13 回 感染爆発と戦う AI: AI・データサイエンスの総合的取り組み(1)				
第 14 回 感染爆発と戦う AI: AI・データサイエンスの総合的取り組み(2)				
第 15 回 まとめ(実力テスト)				
テキスト				
なし				
参考書・参考資料等				
授業中に指示する。				
学生に対する評価				
毎週の小テストとまとめの実力テストによる総合評価とする。				

シラバス

授業科目名： 情報処理入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：高橋真紀、伏尾有加、 永野兼匠、山田明美、三上拓矢ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
パソコンは社会のあらゆる分野に浸透し、必要不可欠なものとなっている。本授業では、大学での学習と実社会においてパソコンを活用するための基本的技能・知識を身に付けることを目的とする。具体的には、Windows・Word・Excel の基本的機能とその操作方法、学内システムの使い方、メールの送受信、インターネットを使った情報収集方法を修得する。			
授業の概要			
Word や Excel の一般的な利用方法、特に Word を利用したレポート作成のための技術と知識が身につく授業内容となっている。学内のシステムを利用して何ができるのか、学内メールやインターネットを使った情報収集の方法、メールやインターネットを使用する上で守るべきエチケットについても学習する。 また、練習問題を取り入れ、繰り返し学習することを通じて、様々なスキルが定着するように指導する。			
授業計画			
第 1 回 初回ガイダンス、講義概要、学内システム、Teams の使い方など			
第 2 回 ファイル管理、インターネットの使い方、文字入力の基礎など			
第 3 回 学内メールの送受信や署名作成、情報モラルと情報セキュリティなど			
第 4 回 Word(1)：Word 概要、基本的なレポート作成方法、保存、他			
第 5 回 Word(2)：レポートに画像や表、図表番号を挿入①、他			
第 6 回 Word(3)：レポートに画像や表、図表番号を挿入②、印刷設定、など			
第 7 回 Excel(1)：Excel 概要、基本的な表の作成、他			
第 8 回 Excel(2)：表の編集(相対参照・絶対参照)、印刷、他			
第 9 回 Excel(3)：グラフ作成、練習問題、他			
第 10 回 Word(4)：表現力をアップする機能(ワードアート、タブ、段組み、PDF ファイルの保存)、他			
第 11 回 Word(5)：長文レポートを編集する方法(ページ番号、見出し、文書校正機能、検索・置換)、他			
第 12 回 Word(6)：練習問題、他			
第 13 回 Word(7)：Word 活用			
第 14 回 Word(8)：Word 総復習			
第 15 回 Word まとめ(実技テスト)			
テキスト			
情報リテラシー アプリ編 Windows 11／Office 2021 対応(FOM 出版)			
参考書・参考資料等			
必要に応じて授業中に指示する。			
学生に対する評価			
成績評価の基準は平常点とする。			
・授業参加度の評価点(30%) ※授業参加度は、授業での提出物のほか、授業への取り組み姿勢を含む			
・通常課題の評価点 (30%)			
・最終課題の評価点 (40%)			
・成績を評価する際、授業態度を考慮することがある。特に授業の進行を妨げるような授業態度の者は、評価を落とす場合がある。			
・追・再試験は実施しないので注意すること。			

授業科目名： 情報処理応用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：高橋真紀、伏尾有加、 永野兼匠、山田明美、三上拓矢ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、大学での学習と実社会においてパソコンを活用するためのより高度な技能・知識を身に付けることを目的とする。具 体的には、前期に実習した Excel のより高度な機能や実践的な技能を身に付ける。 また新たに、情報発信に必要な PowerPoint の機能やプレゼンテーション技術を習得する。			
授業の概要			
前期の情報処理入門で学習したことを踏まえ、Excel では関数の応用、データベースの操作や活用方法、より高度なグラフを作成 する技術、PowerPoint ではスライド作成技術や表やグラフ、図解による表現方法など情報発信に役立つ機能や技術を学習する。 また、Office アプリケーション間の連携方法、Excel でのデータ活用など、発表資料やレポート作成に大いに役立つ知識と技術が身 に付く授業内容となっている。 また、練習問題を取り入れ、繰り返し学習することを通じて、様々なスキルが定着するように指導する。			
授業計画			
第 1 回 オリエンテーション、講座概要、メールの復習、他 第 2 回 Word:前期復習 第 3 回 PowerPoint (1) :PowerPoint 概要、スライド作成、オブジェクト(図形、画像)の挿入、他 第 4 回 PowerPoint (2) :オブジェクト(表作成、グラフ作成)の挿入、画面切り替え、アニメーション設定、他 第 5 回 PowerPoint (3) :スライドマスター、PowerPoint テクニック(発表の際に役立つ機能)、他 第 6 回 Excel (1) :前期復習 第 7 回 Excel (2) :データベース機能(並べ替え・抽出)、複数シートの操作、他 第 8 回 Excel (3) :関数の応用(PHONETIC、COUNTA、COUNTIF 、VLOOKUP、IF)、他 第 9 回 Excel (4) :ユーザー定義、条件付き書式の設定、他 第 10 回 Excel (5) :これまでの復習 第 11 回 Excel (6) :複合グラフ、ピボットテーブル、テーブルの利用、他 第 12 回 Excel (7) :Office 連携(Excel で作成したグラフや表を Word に貼り付け、他) 第 13 回 Excel (8) :データ活用 第 14 回 Excel 総復習 第 15 回 Excel まとめ(実技テスト)			
テキスト			
情報リテラシー アプリ編 Windows 11／Office 2021 対応(FOM 出版)			
参考書・参考資料等			
必要に応じて授業中に指示する。			
学生に対する評価			
成績評価の基準は平常点とする。 ・授業参加度の評価点(30%) ※授業参加度は、授業での提出物のほか、授業への取り組み姿勢を含む ・通常課題の評価点(30%) ・最終課題の評価点(40%) ・成績を評価する際、授業態度を考慮することがある。特に授業の進行を妨げるような授業態度の者は、評価を落とす場合がある。 ・追・再試験は実施しないので注意すること。			

授業科目名： 英語 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：Martin Parsons、阪口 さゆりほか
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
This class aims to build on the English language skills students acquired at secondary school. The main aim of the classes will be to help students to improve their writing and reading skills. 中学・高校で修得した英語力を土台として授業を進めます。主にライティングとリーディングスキルを向上させることを目的とする。			
授業の概要			
Students will learn to use English as a means of communication in different situations through a variety of activities, including explanations of the linguistic aspects of the English language, listening activities, projects, and so on, which aim to improve students’ ability to communicate in English. 英語の言語的側面やさまざまな活動・状況に応じたコミュニケーション手段として英語を使用することを学び、各々のコミュニケーション能力を向上させる。			
授業計画			
第 1 回 Introductions, detailed explanation of class 第 2 回 Communicating about food and meals 第 3 回 Discussing likes and dislikes, favourite foods 第 4 回 Countable & non-countable nouns, using time expressions 第 5 回 Explaining eating habits 第 6 回 Communicating about towns and interesting places 第 7 回 Explaining the locations of places in the town 第 8 回 Review 第 9 回 Giving and asking for directions 第 10 回 Describing one’s own hometown 第 11 回 Communicating about current activities 第 12 回 Using the telephone to talk about current actions 第 13 回 Understanding and using prepositions correctly 第 14 回 Semester review. Talking about what people are doing these days 第 15 回 End of semester evaluation			
テキスト			
Four Corners 1B (with workbook)			
参考書・参考資料等			
英和・和英辞書、ノート/フォルダーを準備すること			
学生に対する評価			
平常点（小テスト、宿題、発表、授業参加、なども含む）50%。 期末確認テスト 50%。			

授業科目名： 英語 2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：Martin Parsons、阪口 さゆりほか
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
This class aims to build on the English language skills students acquired at secondary school. The main aim of the classes will be to help students to improve their writing and reading skills. 中学・高校で修得した英語力を土台として授業を進めます。主にライティングとリーディングスキルを向上させることを目的とする。			
授業の概要			
Students will learn to use English as a means of communication in different situations through a variety of activities, including explanations of the linguistic aspects of the English language, listening activities, projects, and so on, which aim to improve students’ ability to communicate in English. 英語の言語的側面やさまざまな活動・状況に応じたコミュニケーション手段として英語を使用することを学び、各々のコミュニケーション能力を向上させる。			
授業計画			
第 1 回 Discussing the summer holidays, explanation of 2nd semester 第 2 回 Communicating about past experiences 第 3 回 Discussing what happened on the weekend 第 4 回 Understanding and using the past tense correctly 第 5 回 Talking about past routine activities 第 6 回 Communicating about holidays and travel, etc. 第 7 回 Explaining where you were at certain times 第 8 回 Explaining family relationships 第 9 回 Reacting to news 第 10 回 Describing a holiday 第 11 回 Communicating about festivals and special occasions 第 12 回 Explaining about future plans 第 13 回 Discussing and agreeing on a course of action 第 14 回 Describing traditions in different cultures 第 15 回 End of semester evaluation			
テキスト			
Four Corners 1B (with workbook)			
参考書・参考資料等			
英和・和英辞書、ノート/フォルダーを準備すること			
学生に対する評価			
平常点（小テスト、宿題、発表、授業参加、なども含む）50%。 期末確認テスト 50%。			

シラバス

授業科目名： 英語1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：ウィルソン陽子、遠田陽子ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
自己紹介、職業、食べ物など英語での会話でよく扱われるトピックについて、表現の幅を広げるとともに、すでに知っている表現を使って会話できるようになることを目標とします。授業で扱った内容について、単語レベルでなく、シンプルな文で質問に答えられ、自分から相手にも質問できるようになることを目指します。英語だけでコミュニケーションを続けるのに便利な表現も学習します。			
授業の概要			
教科書のテーマについて4スキル(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)と文法を学習しますが、一番受講生が馴染みの少ないリスニングとスピーキングを特に重視します。 なお、時間が許せば1～4回プレゼンテーションも行います。			
授業計画			
第1回 Class Orientation 第2回 Unit 1 Countries “Nice to meet you!” 第3回 Unit 1 Countries “Nice to meet you!” 第4回 Unit 2 Jobs “What do you do?” 第5回 Unit 2 Jobs “What do you do?” 第6回 Unit 3 Food “Do you like noodles?” 第7回 Unit 3 Food “Do you like noodles?” 第8回 Mid-term Assessment Activities 第9回 Unit 4 Sports “How often do you exercise?” 第 10 回 Unit 4 Sports “How often do you exercise?” 第 11 回 Unit 5 Daily Activities “I’m listening to music.” 第 12 回 Unit 5 Daily Activities “I’m listening to music.” 第 13 回 Unit 6 Problems “Where were you yesterday?” 第 14 回 Unit 6 Problems “Where were you yesterday?” 第 15 回 Semester Final Assessment Activities			
テキスト			
Smart Choice Level 1 Multi-Pack: Student Book Workbook Split Edition AFourth Edition, Ken Wilson, Oxford University			
参考書・参考資料等			
英和辞典			
学生に対する評価			
授業参加態度(発言や授業内での課題)を全体の 40%、試験(ユニット末テスト、小テスト)40%、その他の課題(主にオンライン教材)20%で成績をつけます。中間・期末には成績評価を伴うアクティビティ(プレゼンテーションなど)も行う予定です。			

シラバス

授業科目名： 英語 2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：ウィルソン陽子、遠田陽子ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 自己紹介、職業、食べ物など英語での会話でよく扱われるトピックについて、表現の幅を広げるとともに、すでに知っている表現を使って会話できるようになることを目標とします。¥n 年度終了時には授業で扱った内容について、単語レベルでなく、シンプルな文で質問に答えられ、自分から相手にも質問できるようになることを目指します。英語だけでコミュニケーションを続けるのに便利な表現も学習します。			
授業の概要 教科書のテーマについて4スキル(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング)と文法を学習しますが、一番受講生が馴染みの少ないリスニングとスピーキングを特に重視します。 なお、時間が許せば1～4回プレゼンテーションも行います。			
授業計画 第 1 回 Class Orientation 第 2 回 Unit 7 Clothes “Which one is cheaper?” 第 3 回 Unit 7 Clothes “Which one is cheaper?” 第 4 回 Unit 8 Appearance and personality “They’re very friendly.” 第 5 回 Unit 8 Appearance and personality “They’re very friendly.” 第 6 回 Unit 9 Local attractions “You can visit the zoo.” 第 7 回 Unit 9 Local attractions “You can visit the zoo.” 第 8 回 Mid-term Assessment Activities 第 9 回 Unit 10 Places around town “Is there a coffee shop?” 第 10 回 Unit 10 Places around town “Is there a coffee shop?” 第 11 回 Unit 11 Vacation activities “I had a good time” 第 12 回 Unit 11 Vacation activities “I had a good time” 第 13 回 Unit 12 Transport “I’m going to go by car.” 第 14 回 Unit 12 Transport “I’m going to go by car.” 第 15 回 Semester Final Assessment Activities			
テキスト Smart Choice Level 1 Multi-Pack: Student Book Workbook Split Edition AFourth Edition, Ken Wilson, Oxford University			
参考書・参考資料等 英和辞典			
学生に対する評価 授業参加態度(発言や授業内での課題)を全体の 40%、試験(ユニット末テスト、小テスト)40%、その他の課題(主にオンライン教材)20%で成績をつけます。中間・期末には成績評価を伴うアクティビティ(プレゼンテーションなど)も行う予定です。			

シラバス

授業科目名: Intermediate English Grammar 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名: 権 瞳ほか 担当形態: クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
受講生は大学中級レベルの文法知識を学び、その知識を活用し、平易な英語で自分の考えを相手に伝えられるようになります。学習した文法項目を活用するために必要な中級レベルの語彙、リスニング、ライティング、スピーキング力を身につけます。			
授業の概要			
実際のコミュニケーションで使える文法力を養成することに重点を置きます。予習を前提にした授業ですので活発な質問が期待されます。文法項目ごとに毎回小テストを行い、学んだ内容を定着させます。			
授業計画			
第 1 回 オリエンテーション Ch. 1 PRESENT TIME: Chart 1, 2 第 2 回 Ch. 1 PRESENT TIME: Chart 3, 4 第 3 回 Ch. 1 PRESENT TIME: Chart 5, 6 第 4 回 Ch. 1 PRESENT TIME: Chart 7 第 5 回 Ch. 1 PRESENT TIME: Chapter 復習テスト Ch. 2 PAST TIME: Chart 1 - 3 第 6 回 Ch. 2 PAST TIME: Chart 4 - 6 第 7 回 Ch. 2 PAST TIME: Chart 7 第 8 回 Ch. 2 PAST TIME: Chart 8, 9 第 9 回 Ch. 2 PAST TIME: Chapter 復習テスト Ch. 3 FUTURE TIME: Chart 1 - 3 第 10 回 Ch. 3 FUTURE TIME: Chart 4, 5 第 11 回 Ch. 3 FUTURE TIME: Chart 6 - 8 第 12 回 Ch. 3 FUTURE TIME: Chart 9 - 11 第 13 回 Ch. 3 FUTURE TIME: Chapter 復習テスト Ch. 4 PRESENT & PAST PERFECT: Chart 1 - 3 第 14 回 Ch. 4 PRESENT & PAST PERFECT: Chart 4, 5 第 15 回 Ch. 4 PRESENT & PAST PERFECT: Chart 6, 7 第 16 回 Ch. 4 PRESENT & PAST PERFECT: Chart 8 第 17 回 Ch. 4 PRESENT & PAST PERFECT: Chapter 復習テスト Ch. 5 ASKING QUESTIONS: Chart 1, 2 第 18 回 Ch. 5 ASKING QUESTIONS: Char 3 - 5 第 19 回 Ch. 5 ASKING QUESTIONS: Char 6 - 9 第 20 回 Ch. 5 ASKING QUESTIONS: Char 10 - 13 第 21 回 Ch. 5 ASKING QUESTIONS: Chapter 復習テスト Ch. 6 NOUNS & PRONOUNS: Chart 1 - 4 第 22 回 Ch. 6 NOUNS & PRONOUNS: Chart 5 - 9 第 23 回 Ch. 6 NOUNS & PRONOUNS: Chart 10 ? 13 第 24 回 Ch. 6 NOUNS & PRONOUNS: Chart 14 - 17 第 25 回 Ch. 6 NOUNS & PRONOUNS: Chapter 復習テスト Ch. 7 MODAL AUXILIARIES: Chart 1 - 4 第 26 回 Ch. 7 MODAL AUXILIARIES: Chart 5 - 8 第 27 回 Ch. 7 MODAL AUXILIARIES: Chart 9 - 11 第 28 回 Ch. 7 MODAL AUXILIARIES: Chart 12 - 16 Chapter 復習テスト 第 29 回 期末総復習テスト 第 30 回 まとめとフィードバック			
テキスト			
Azar, Betty S. & Stacy A. Hagen (2020) Fundamentals of English Grammar 5th Ed. with Essential Online Resources, Pearson.			
参考書・参考資料等			
高校時代に購入した文法のテキストを適宜利用してください。			
学生に対する評価			
課題の提出状況:20% Chapter テスト:50% 期末総復習テスト:30% 課題提出や出席状況が良くない場合、最大 20%の減点があります。出席が授業回数の 1/3 を超えると単位認定をしません。 注意:出席や課題提出は 100%が当然ですので、減点はあっても加点はありません。			

授業科目名: Intermediate English Grammar 2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名: 権 瞳ほか 担当形態: クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
受講生は大学中級レベルの文法知識を学び、その知識を活用し、平易な英語で自分の考えを相手に伝えられるようになります。学習した文法項目を活用するために必要な中級レベルの語彙、リスニング、ライティング、スピーキング力を身につけます。			
授業の概要			
Intermediate English Grammar 1 の続きとなります。実際のコミュニケーションで使える文法力を養成することに重点を置きます。予習を前提にした授業ですので活発な質問が期待されます。文法項目ごとに毎回、小テストを行い、学んだ内容を定着させます。			
授業計画			
第 1 回 オリエンテーション Ch. 8 CONNECTING IDEAS: Chart 1, 2, 3 第 2 回 Ch. 8 CONNECTING IDEAS: Chart 4, 5 第 3 回 Ch. 8 CONNECTING IDEAS: Chart 6, 7 第 4 回 Ch. 8 復習テスト & Ch. 9 COMPARISONS: Chart 1-3 第 5 回 Ch. 9 COMPARISONS: Chart 4-8 第 6 回 Ch. 9 COMPARISONS: Chart 9-11 第 7 回 Ch. 9 復習テスト & Ch. 10 THE PASSIVE: Chart 1-3 第 8 回 Ch. 10 THE PASSIVE: Chart 4, 5 第 9 回 Ch. 10 THE PASSIVE: Chart 6, 7 第 10 回 Ch. 10 THE PASSIVE: Chart 8, 9 第 11 回 Ch. 10 THE PASSIVE: Chart 10, 11, 12 第 12 回 Ch. 10 復習テスト & Ch. 11 COUNT/NONCOUNT NOUNS & ARTICLES: Chart 1, 2 第 13 回 Ch. 11 COUNT/NONCOUNT NOUNS & ARTICLES: Chart 3, 4 第 14 回 Ch. 11 COUNT/NONCOUNT NOUNS & ARTICLES: Chart 5, 6 第 15 回 Ch. 11 COUNT/NONCOUNT NOUNS & ARTICLES: Chart 7, 8 第 16 回 Ch. 11 COUNT/NONCOUNT NOUNS & ARTICLES: Chart 9-11 第 17 回 Ch. 11 復習テスト & Ch. 12 ADJECTIVE CLAUSES: Chart 1, 2 第 18 回 Ch. 12 ADJECTIVE CLAUSES: Chart 3, 4 第 19 回 Ch. 12 ADJECTIVE CLAUSES: Chart 5, 6 第 20 回 Ch. 12 ADJECTIVE CLAUSES: Chart 7 第 21 回 Ch. 12 復習テスト & Ch. 13 GERUNDS & INFINITIVES: Chart 1, 2 第 22 回 Ch. 13 GERUNDS & INFINITIVES: Chart 3, 4, 5 第 23 回 Ch. 13 GERUNDS & INFINITIVES: Chart 6, 7, 8 第 24 回 Ch. 13 GERUNDS & INFINITIVES: Chart 9, 10 第 25 回 Ch. 13 復習テスト & Ch. 14 NOUN CLAUSES: Chart 1, 2, 3 第 26 回 Ch. 14 NOUN CLAUSES: Chart 4, 5, 6 第 27 回 Ch. 14 NOUN CLAUSES: Chart 7, 8, 9,10 Ch. 14 復習テスト 第 28 回 今までの復習テストを基に見直し点検 第 29 回 期末総復習及び確認テスト 第 30 回 まとめとフィードバック			
テキスト			
Azar, Betty S. & Stacy A. Hagen (2020) Fundamentals of English Grammar 5th Ed. with Essential Online Resources, Pearson.			
参考書・参考資料等			
高校時代に購入した文法のテキストを適宜利用してください。			
学生に対する評価			
課題の提出状況:20% Chapter テスト:50% 期末総復習テスト:30% 課題提出や出席状況が良くない場合、最大 20%の減点があります。欠席が授業回数の 1/3 を超えると単位認定をしません。 注意:出席や課題提出は 100%が当然ですので、減点はあっても加点はありません。			

シラバス

授業科目名: Advanced English Grammar 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名: 権 瞳ほか 担当形態: クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
受講生は大学上級レベルの文法知識を学び、その知識を活用し、平易な英語で自分の考えを相手に伝えられるようになります。学習した文法項目を活用するために必要な上級レベルの語彙、リスニング、ライティング、スピーキング力を身につけます。			
授業の概要			
実際のコミュニケーションで使える文法力を養成することに重点を置きます。予習を前提にした授業ですので活発な質問が期待されます。文法項目ごとに毎回、小テストを行い、学んだ内容を定着させます。			
授業計画			
第 1 回 オリエンテーション Ch. 1 PRESENT & PAST: Chart 1, 2			
第 2 回 Ch. 1 PRESENT & PAST: Chart 3, 4			
第 3 回 Ch. 1 PRESENT & PAST: Chart 5, 6 & Chapter 復習テスト			
第 4 回 Ch. 2 PERFECT & PERFECT PROGRESSIVE TENSES: Chart 1-4			
第 5 回 Ch. 2 PERFECT & PERFECT PROGRESSIVE TENSES: Chart 5-7			
第 6 回 Ch. 2 PERFECT & PERFECT PROGRESSIVE TENSES: Chart 8-10 & Chapter 復習テスト			
第 7 回 Ch. 3 FUTURE TIME: Chart 1-3			
第 8 回 Ch. 3 FUTURE TIME: Chart 4-6 & Chapter 復習テスト			
第 9 回 Ch. 4 REVIEW OF VERB TENSES & Chapter 復習テスト			
第 10 回 Ch. 5 SUBJECT-VERB AGREEMENT: Chart 1-3			
第 11 回 Ch. 5 SUBJECT-VERB AGREEMENT: Chart 4-6 & Chapter 復習テスト			
第 12 回 Ch. 6 NOUNS: Chart 1-3			
第 13 回 Ch. 6 NOUNS: Chart 4-7			
第 14 回 Ch. 6 NOUNS: Chart 8-11 & Chapter 復習テスト			
第 15 回 Ch. 7 ARTICLES: Chart 1-3			
第 16 回 Ch. 7 ARTICLES: Chart 4-5 & Chapter 復習テスト			
第 17 回 Ch. 8 PRONOUNS: Chart 1-3			
第 18 回 Ch. 8 PRONOUNS: Chart 4, 5			
第 19 回 Ch. 8 PRONOUNS: Chart 6, 7 & Chapter 復習テスト			
第 20 回 Ch. 9 MODALS, PART 1: Chart 1-3			
第 21 回 Ch. 9 MODALS, PART 1: Chart 4-7			
第 22 回 Ch. 9 MODALS, PART 1: Chart 8-10 & Chapter 復習テスト			
第 23 回 Ch. 10 MODALS, PART 2: Chart 1-3			
第 24 回 Ch. 10 MODALS, PART 2: Chart 4-7			
第 25 回 Ch. 10 MODALS, PART 2: Chart 8-10 & Chapter 復習テスト			
第 26 回 Ch. 11 THE PASSIVE: Chart 1-3			
第 27 回 Ch. 11 THE PASSIVE: Chart 4-6			
第 28 回 Ch. 11 THE PASSIVE: Chart 7, 8 & Chapter 復習テスト			
第 29 回 期末総復習および確認テスト			
第 30 回 まとめとフィードバック			
テキスト			
Azar, Betty S. & Stacy A. Hagen (2017) Understanding and Using English Grammar 5th Ed. With Essential Online Resources, Pearson.			
参考書・参考資料等			
高校時代に購入した文法のテキストを適宜利用してください。			
学生に対する評価			
課題の提出状況:20% Chapter テスト:50% 期末総復習確認テスト:30%			
課題提出や出席状況が良くない場合、最大 20%の減点があります。欠席が授業回数の 1/3 を超えると単位認定をしません。			
注意:出席や課題提出は 100%が当然ですので、減点はあっても加点はありません。			

シラバス

授業科目名: Advanced English Grammar 2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数: 2 単位	担当教員名: 権 瞳ほか 担当形態: クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 受講生は大学上級レベルの文法知識を学び、その知識を活用し、平易な英語で自分の考えを相手に伝えられるようになります。 学習した文法項目を活用するために必要な上級レベルの語彙、リスニング、ライティング、スピーキング力を身につけます。			
授業の概要 Advanced English Grammar 1 の続きとなります。実際のコミュニケーションで使える文法力を養成することに重点を置きます。予習を前提にした授業ですので活発な質問が期待されます。文法項目ごとに毎回、小テストを行い、学んだ内容を定着させます。			
授業計画 第 1 回 オリエンテーション Ch. 12 NOUN CLAUSES: Chart 1-3 第 2 回 Ch. 12 NOUN CLAUSES: Chart 4-6 第 3 回 Ch. 12 NOUN CLAUSES: Chart 7-9 & 復習テスト 第 4 回 Ch. 13 ADJECTIVE CLAUSES: Chart 1-3 第 5 回 Ch. 13 ADJECTIVE CLAUSES: Chart 4-7 第 6 回 Ch. 13 ADJECTIVE CLAUSES: Chart 8-10 第 7 回 Ch. 13 ADJECTIVE CLAUSES: Chart 11 & 復習テスト 第 8 回 Ch. 14 GERUNDS & INFINITIVES, PART 1: Chart 1-3 第 9 回 Ch. 14 GERUNDS & INFINITIVES, PART 1: Chart 4, 5 第 10 回 Ch. 14 GERUNDS & INFINITIVES, PART 1: Chart 6-8 第 11 回 Ch. 14 GERUNDS & INFINITIVES, PART 1: Chart 9-12 & 復習テスト 第 12 回 Ch. 15 GERUNDS AND INFINITIVES, PART 2: Chart 1-3 第 13 回 Ch. 15 GERUNDS AND INFINITIVES, PART 2: Chart 4-6 第 14 回 Ch. 15 GERUNDS AND INFINITIVES, PART 2: Chart 7-10 & 復習テスト 第 15 回 Ch. 16 COORDINATING CONJUNCTIONS: Chart 1, 2 第 16 回 Ch. 16 COORDINATING CONJUNCTIONS: Chart 3, 4 & 復習テスト 第 17 回 Ch. 17 ADVERB CLAUSES: Chart 1, 2 第 18 回 Ch. 17 ADVERB CLAUSES: Chart 3-7 第 19 回 Ch. 17 ADVERB CLAUSES: Chart 8-11 & 復習テスト 第 20 回 Ch. 18 ADVERB CLAUSES TO ADVERBIAL PHRASES: Chart 1-4 第 21 回 Ch. 18 ADVERB CLAUSES TO ADVERBIAL PHRASES: Chart 5 & 復習テスト 第 22 回 Ch. 19 CONNECTIVES: Chart 1-3 第 23 回 Ch. 19 CONNECTIVES: Chart 4-6 第 24 回 Ch. 19 CONNECTIVES: Chart 7-9 & 復習テスト 第 25 回 Ch. 20 CONDITIONAL SENTENCES & WISHES: Chart 1-3 第 26 回 Ch. 20 CONDITIONAL SENTENCES & WISHES: Chart 4-6 第 27 回 Ch. 20 CONDITIONAL SENTENCES & WISHES: Chart 7-10& 復習テスト 第 28 回 復習テストを基にした総復習 第 29 回 期末総復習および確認テスト 第 30 回 まとめとフィードバック			
テキスト Azar, Betty S. & Stacy A. Hagen (2017) Understanding and Using English Grammar 5th Ed. With Essential Online Resources, Pearson.			
参考書・参考資料等 高校時代に購入した文法のテキストを適宜利用してください。			
学生に対する評価 課題の提出状況:20% Chapter テスト:50% 期末総復習確認テスト:30% 課題提出や出席状況が良くない場合、最大 20%の減点があります。欠席が授業回数の 1/3 を超えると単位認定をしません。 注意:出席や課題提出は 100%が当然ですので、減点はあっても加点はありません。			

シラバス

授業科目名： ホスピタリティ英語 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：下平雪雄ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
本講義では、ホスピタリティ業(エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等)に関与する際、さらに広く接遇にあたる際の実践につながる英語の運用能力と共に、自ら、工夫し発信する力を身につける。			
授業の概要			
接客・接遇に不可欠な丁寧な表現や敬語表現を習得すると共に、実際に現場で使われる基本的な用語・表現を能動的に使えるように訓練する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション ホスピタリティとは。英語の敬語表現とは。観光英語検定紹介			
第2回 UNIT 1 北海道			
第3回 UNIT 2 京都			
第4回 UNIT 3 湯布院			
第5回 復習小テスト シーン別表現 ホテルにて①			
第6回 丁寧な英語表現(4) シーン別表現 ホテルにて②			
第7回 UNIT 4 シンガポール			
第8回 UNIT5 パリ			
第9回 UNIT6 湯布院			
第 10 回 復習小テスト シーン別表現 空港にて①			
第 11 回 復習・シーン別表現 空港にて②			
第 12 回 復習・ シーン別表現実践練習			
第 13 回 観光英語検定模擬問題			
第 14 回 シーン別表現実践 パフォーマンステスト			
第 15 回 まとめ、確認テスト			
テキスト			
English for Tourism 101(CD 共) (一から学ぶ観光英語の基礎～日本から世界へ) 津田晶子 クリストファー・ヴァルヴォナ 岩本弓子著 南雲堂			
参考書・参考資料等			
適宜紹介、配布する。			
学生に対する評価			
講義参加度合い 15%			
単語テスト・復習小テスト 40%			
パフォーマンステスト・確認テスト 45%			

シラバス

授業科目名： ホスピタリティ英語 2	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：下平雪雄ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 本講義では、ホスピタリティ業(エアライン関連・旅行代理店・ホテル・旅館・インバウンド/観光促進団体等)に関与する際、さらに広く接遇にあたる際の実践につながる英語の運用能力と共に、自ら、工夫し発信する力を身につける。			
授業の概要 実際に現場で使われる基本的な用語・表現を能動的に使えるように訓練すると共に、海外からのインバウンド客および海外での接遇に欠かせない、日本の伝統、催事、現代の社会などを英語で発信できるように実践する。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 観光英語検定テストにチャレンジ 第2回 UNIT 9 ロンドン 第3回 UNIT 10 フランス 第4回 UNIT 11 ヨーロッパの美術館 第5回 UNIT9-11 まとめ、復習小テスト 第6回 既習ユニット復習 第7回 UNIT 12 ニューヨーク 第8回 UNIT 13 ボストン 第9回 UNIT 14 カナダ 第 10 回 UNIT 15 リオ 第 11 回 UNIT12-15 まとめ、復習小テスト 第 12 回 既習ユニット復習 第 13 回 日本に関する FAQ 第 14 回 復習小テストの振り返り、パフォーマンステスト 第 15 回 まとめと確認テスト			
テキスト English for Tourism 101(CD 共) (一から学ぶ観光英語の基礎～日本から世界へ) 津田晶子 クリストファー・ヴァルヴォナ 岩本弓子著 南雲堂			
参考書・参考資料等 適宜紹介、配布する。			
学生に対する評価 講義参加度合い 15% 単語テスト・復習小テスト 40% パフォーマンステスト・確認テスト 45%			

授業科目名： 韓国語コミュニケーション 1		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：高 梨恵、池 清琴、 金 旻貞
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
韓国語の文字(ハングル)の仕組みを理解し、読み書きができる。¥n 韓国語で挨拶の表現や自己紹介ができる。¥n 身近な事柄を韓国語で質問したり、答えたりできる。				
授業の概要				
初学者を対象とした授業。前半はハングルの仕組みを理解し、それぞれのパーツ、発音上のルールなど一つ一つ積み上げるように学習していく。ハングルの読み書きにある程度慣れたら、挨拶の表現や自己紹介の表現を韓国語で言えるようにする。後半はテキストに沿って授業を進めるが、新出の文法や語彙を学習し、ダイアログの表現をベースにいろいろな練習問題に取り組み、「読む・聞く・話す・書く」力をバランスよく鍛えていく。				
授業計画				
第1回 ガイダンス、及び 基礎・第1課 韓国語の特徴とハングルの仕組み				
第2回 基礎・第2課 基本の母音 10 個				
第3回 基礎・第3課 基本の子音ー平音				
第4回 基礎・第3課 基本の子音ー平音のつづき				
第5回 基礎・第3課 基本の子音ー激音と濃音				
第6回 基本母音と子音(平音・激音・濃音)の復習				
第7回 基礎・第4課 複合母音11個				
第8回 基礎・第5課 パッチム(終声子音)の発音と形				
第9回 日本語のハングル表記				
第 10 回 基礎・第6課 発音の変化(連音化、鼻音化など)				
第 11 回 基礎・第7課 あいさつの表現				
第 12 回 文字と発音の全体的な復習と小テストに備えた学習				
第 13 回 小テスト①ー文字と発音、及びあいさつの表現				
第 14 回 第1課 「～は～です」ー私は浅井ゆかりです				
第 15 回 第1課のつづき				
第 16 回 第2課 「～が～ですか」ー出身はソウルですか				
第 17 回 第2課のつづき				
第 18 回 韓国語で自己紹介にチャレンジ				
第 19 回 第3課 「～ではありません(か)」ー図書館ではありません				
第 20 回 第3課のつづき				
第 21 回 第1課～3課までの復習と小テストに備えた学習				
第 22 回 小テスト②ー第1～3課				
第 23 回 第4課 「います/あります」「いません/ありません」ー時間がありますか				
第 24 回 第4課のつづき				
第 25 回 第5課 「～を～します/しますか」ー何をしますか				
第 26 回 第5課のつづき				
第 27 回 第7課 「～です/～ます」ー服を買います				
第 28 回 第7課のつづき				
第 29 回 第4、5、7課の復習と小テストに備えた学習				
第 30 回 小テスト③ー第4課、5課、7課				
テキスト				
基礎から学ぶ韓国語講座初級 国書刊行会 木内 明				
参考書・参考資料等				
特になし				
学生に対する評価				
確認テスト(3回) 60% 平常点(授業への参加態度を含む) 40%				

授業科目名： 中国語コミュニケーション 1		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：李 文英、張 蘭、 姜 曉麗
				担当形態： クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
本授業の到達目標は授業を通して学生に次のスキルを身につけてもらうことである。 ①ピンインという中国語のローマ字発音記号を覚え、繰り返し声に出し練習して、正確な発音ができるようになる。 ②中国語で簡単な自己紹介(名前、学部、学年、出身地)ができるようになる。 ③日にち、曜日、時間、電話番号、値段などの数字を即座に聞き取れ、また正確に伝えられるようになる。 ④中国語の語順、基礎文法を学習し、簡単な会話をできるようにする。 ⑤中国語の特有な文法を理解し、短文の読解ができるようになる。				
授業の概要				
1) 発音の練習について、テキストの録音と担当者の発音を聞き、繰り返し声に出し、声調・子音・母音を意識しながら正確な発音ができるまでレッスンを行う。 2) リスニングについて、前期は練習問題のピンイン記号を見ながら担当者の発音を聞き選ぶ練習をする。後期は各課の会話文は担当者と繰り返し練習した後、担当者が読み上げる文を聞いて、内容を日本語で担当者に伝える。このレッスンを通して応用力を身につける。 3) 会話の学習について、日常の挨拶をはじめ、買い物・注文・質問などの場面で使える簡単な会話文を覚え、使えるようにレッスンを行う。 4) 文法については、まず単語一つ一つ本来の意味を理解して覚えるのが重要である。その上で、文法を少しずつ覚えていく。文法が理解できれば応用が利き、より表現力が高まる。				
授業計画				
第1回 ガイダンス・中国語概説・声調・単母音 第2回 第1課 複母音と練習問題 第3回 第2課 子音と練習問題 第4回 第3課 鼻母音と練習問題 第5回 第4課 挨拶の練習と簡体字についての紹介 第6回 第5課 会話文・単語・発音 第7回 第5課 文法 第8回 第6課 会話文・単語・発音 第9回 第6課 文法 第 10 回 第5・6課の復習 第 11 回 第7課 会話文・単語・発音 第 12 回 第7課 文法 第 13 回 第7課 文法(数字) 第 14 回 第8課 会話文・単語・発音 第 15 回 第8課 文法 第 16 回 第8課 文法(量詞、時間量) 第 17 回 第9課 会話文・単語・発音 第 18 回 第9課 文法(疑問詞疑問文) 第 19 回 第9課 文法(量詞) 第 20 回 第 10 課 会話文・単語・発音 第 21 回 第 10 課 文法 第 22 回 第 10 課 文法 第 23 回 第 11 課 会話文・単語・発音 第 24 回 第 11 課 文法 第 25 回 第 11 課 文法 第 26 回 第 12 課 会話文・単語・発音 第 27 回 第 12 課 文法 第 28 回 第 12 課 文法 第 29 回 まとめと確認筆記試験(5～12 課) 第 30 回 口頭試験、確認試験テスト返却及び解説(5～12 課)				
テキスト				
相原茂 朱 怡『ニーハオ！ニッポン ふりむけば、中国語』朝日出版社				

参考書・参考資料等
配布したプリント
学生に対する評価
成績評価基準: 平常点 100 点 + 確認筆記試験 100 点 + 口頭試験 100 点 = 合計 300 点のうち、180 点以上を合格とします。 平常点は、課題+授業への参加度(発音、会話への取り組み)で総合的に判断します。

シラバス

授業科目名： メディア・イングリッシュ 1		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 1 単位		担当教員名：Matthew Caldwell、 城野 豊、坂上加余子、鈴木喜美、 川口裕子ほか	
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標							
リーディング・リスニングを中心に、様々な興味深いトピックスを扱ったテキストを使用してトレーニングを積むクラスです。授業をと おして異文化に対する理解を深め、興味が持てるようになることを目指します。¥n 環境、科学、社会問題などの題材に関して読解し、 自分の意見を発信する力を身につけます。 ¥n 長い文章・パッセージの英訳や、自由英作文を取り入れ、ライティング力も強化しま す。							
授業の概要							
様々な題材について単語と文章の意味を理解しながら読むことによって英語の読解力を身につけ、関連するトピックスについて視 覚教材を使用してリスニングの練習を行います。最初は少しずつ読み、聴き、正しく理解することを指導し、慣れてくるにしたがって 一度に理解できる量を増やしていきます。							
授業計画							
第 1 回 オリエンテーション Unit1 Mysteries							
第 2 回 Unit1 Mysteries							
第 3 回 Unit1 Mysteries. MyELT Unit 1a							
第 4 回 Unit2 Eating Extremes							
第 5 回 Unit2 Eating Extremes. MyELT Unit 1b							
第 6 回 Unit2 Eating Extremes							
第 7 回 Unit 1&2 まとめ、内容チェック. MyELT Unit 2a							
第 8 回 Unit3 Cool jobs. 中間テスト							
第 9 回 Unit3 Cool jobs. MyELT Unit 2b							
第 10 回 Unit3 Cool jobs							
第 11 回 Unit4 Shipwrecks. MyELT Unit 3a							
第 12 回 Unit4 Shipwrecks							
第 13 回 Unit4 Shipwrecks Unit 3&4 まとめ、内容チェック. MyELT Unit 3b							
第 14 回 総まとめ、期末テスト							
第 15 回 期末テスト解説. MyELT Unit 4 a & b							
テキスト							
Reading Explorer Foundations 3rd Edition (Student book with Online Workbook Access).Cengage Learning							
参考書・参考資料等							
特になし							
学生に対する評価							
授業参加:15%							
小テスト: 25%							
宿題・課題提出: 20%							
Web 上の宿題 (MyELT): 10%							
中間・期末テスト: 30%							

シラバス

授業科目名： メディア・イングリッシュ 2		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名:Matthew Caldwell、 城野 豊、坂上加余子、鈴木喜美、 川口裕子ほか 担当形態： クラス分け・単独
科 目		教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標				
リーディング・リスニングを中心に、身近なトピックスを扱ったテキストを使用してトレーニングを積むクラスです。授業をとおして異文化に対する理解を深め、興味を持てるようになることを目指します。 並行して、補助教材を使いながら基礎的な文法力を強化し、文章を構造的にとらえて読むことを目指します。 単語の並べ替えや文章の暗記をしてトレーニングし、英作文の基礎の力をつけます。				
授業の概要				
様々な題材について単語や文章の意味を理解しながら読むことによって英語の読解力をつけ、関連するトピックスについて視覚教材をとおしてリスニングの練習を行います。最初は少しずつ読み、聴き、正しく理解することを指導し、慣れてくるにしたがって一度に理解できる量を増やしていきます。				
授業計画				
第 1 回 オリエンテーション Unit5 Jobs 第 2 回 Unit5 Jobs 第 3 回 Unit5 Jobs 第 4 回 Unit6 Homes and Buildings 第 5 回 Unit6 Homes and Buildings 第 6 回 Unit6 Homes and Buildings 第 7 回 Unit5&6 まとめ、内容チェック 第 8 回 Unit7 Food and Culture. 中間テスト 第 9 回 Unit7 Food and Culture 第 10 回 Unit7 Food and Culture 第 11 回 Unit8 Transportation 第 12 回 Unit8 Transportation 第 13 回 Unit8 Transportation Unit7&8 まとめ、内容チェック 第 14 回 総まとめ、期末テスト 第 15 回 期末テスト解説				
テキスト				
Prism Reading Intro (Cambridge University Press)				
参考書・参考資料等				
特になし				
学生に対する評価				
授業参加:15% 小テスト: 25% 宿題・課題提出: 30% 中間・期末テスト: 30%				

授業科目名： 英語コミュニケーション 1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：Matthew Caldwell ほか
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
このコースは、基本的な文法学習、語彙学習(NGSL New General Service List)、リスニングとスピーキング の練習を組み合わせること で、英語でのコミュニケーション能力を向上させることを目標にしています。TOEIC 対策用のテキストで聴解力・読解力・文法力が 強化され、TOEIC 350 以上の英語力を身につけることを目指し ています。また異文化への興味を涵養することも目指します。			
授業の概要			
日常生活に必要な語彙や表現を学び、ペアワークやグループワークで練習をします。 ペアワーク、グループワークの後、英語による 発表を行います。また、English Central (オンライン学習)の教材の短い英語のビデオを視聴し、出てくる単語とセリフを学習しま す。その後、English Central の教材を使って会話をを行います。さらに、TOEIC L&R テストに頻出する文法パターンや語 彙を学習し ます。コースガイドラインは初回の授業で配布します。			
授業計画			
第 1 回 授業概要とガイドライン。 Smart Choice Level 1: Unit 1. 第 2 回 English Central オンライン学習の登録・紹介・解説。 TOEIC L&R テスト Part 1~7 について。 第 3 回 Smart Choice Level 1: Unit 1. NGSL 語彙 study No.1 (500-529). 第 4 回 English Central Unit 1a. TOEIC Part 1 (Unit 1). NGSL 語彙テスト No.1 (500-529). 第 5 回 Smart Choice Level 1: Unit 2. NGSL 語彙 study No.2 (530-559). 第 6 回 English Central Unit 1b . TOEIC Part 7 (Unit 1). NGSL 語彙テスト No.2 (530-559). 第 7 回 Smart Choice Level 1: Unit 2. NGSL 語彙 study NGSL study No.3 (560-589). 第 8 回 English Central Unit 2a . TOEIC Part 2 (Unit 2). NGSL 語彙テスト No.3 (560-589). 第 9 回 Smart Choice Level 1: Unit 3. NGSL 語彙 study No.4 (590-619). 第 10 回 English Central Unit 2b. TOEIC Part 7 (Unit 2). NGSL 語彙テスト No.4 (590-619). 第 11 回 Smart Choice Level 1: Unit 3. NGSL 語彙 study No.5 (620-649). 第 12 回 English Central Unit 3a. TOEIC Part 3 (Unit 3). NGSL 語彙テスト No.5 (620-649). 第 13 回 Smart Choice Level 1: Unit 1-3 review. NGSL 語彙 study No.6 (650-679). 第 14 回 English Central Unit 3b. TOEIC Part 5 (Unit 3). NGSL 語彙テスト No.6 (650-679). 第 15 回 Smart Choice 中間テスト。 Smart Choice Level 1: Unit 4. NGSL 語彙 study No.7 (680-709). 第 16 回 English Central Unit 4a. TOEIC Part 4 (Unit 4). NGSL 語彙テスト No.7 (680-709). 第 17 回 Smart Choice Level 1: Unit 4. NGSL 語彙 study No.8 (710-739). 第 18 回 English Central Unit 4b. TOEIC Part 5 (Unit 4). NGSL 語彙テスト No.8 (710-739). 第 19 回 Smart Choice Level 1: Unit 4. NGSL 語彙 study No.9 (740-769). 第 20 回 English Central Unit 5a. TOEIC Part 1 (Unit 5). NGSL 語彙テスト No.9 (740-769). 第 21 回 Smart Choice Level 1: Unit 5. NGSL 語彙 study No.10 (770-799). 第 22 回 English Central Unit 5b. TOEIC Part 7 (Unit 5). NGSL 語彙テスト No.10 (770-799). 第 23 回 Smart Choice Level 1: Unit 5. NGSL 語彙 study No.11 (800-829). 第 24 回 English Central Unit 6a TOEIC Part 2 (Unit 6). NGSL 語彙テスト No.11 (800-829). 第 25 回 Smart Choice Level 1: Unit 6. NGSL 語彙 study No.12 (830-859). 第 26 回 English Central Unit 6b TOEIC Part 7 (Unit 6). NGSL 語彙テスト No.12 (830-859). 第 27 回 Smart Choice Level 1: Unit 6. NGSL 語彙 study No.13 (860-889). 第 28 回 TOEIC review。 TOEIC L&R 模擬テスト。 NGSL 語彙テスト No.13 (860-889). 第 29 回 Smart Choice Level 1: Unit 4-6 review。 NGSL 語彙 study No.14 (890-919). 第 30 回 Smart Choice 期末テスト&インタビューテスト。 NGSL 語彙テスト No.14 (890-919).			
テキスト			
Smart Choice 1(Oxford) Mastery Drills For The TOEIC L&R テスト(All in One) Target 500 (Kiriara Shoten) English Central Web 教材 Academic Premium			
参考書・参考資料等			
特になし			
学生に対する評価			
授業参加(発表): 15%、宿題・課題提出: 10%、小テスト(TOEIC) : 15% 中間テスト: 10% (Smart Choice テキストに基づくリスニング・文法・語彙テスト)			

期末テスト: 10% (Smart Choice テキストに基づくリスニング・文法・語彙テスト)

期末のインタビューテスト: 10%

English Central : 20% (毎週の English Central Units の完成)

NGSL: 10% (毎週の授業中 Vocabulary Progress Test 5%; 毎週の単語学習目標を達成:5%)

単位修得には、模擬 TOEIC L&R の受験が必要です。詳細は授業で説明します。

授業科目名： 英語アドバンスト・コミュニケーション1	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：Matthew Caldwell ほか
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
社会生活やビジネス場面で扱われる様々なトピックについて、総合的な英語でのコミュニケーションスキルを段階的に組織立って向上させることを目標にしています。同じ話題でも使用する語彙や表現でレベルが異なってきます。クラスが進むにつれて、練習はより高度になり、洗練された表現の習得で運用力のスキルアップがはかれます。TOEIC 対策用のテキストで聴解力・読解力・文法力を強化し、発話力を高めるテキストですぐに使える英語能力を養成するとともに、語彙学習(NGSL:New General Service List)により語彙力を向上します。また異文化への興味を涵養することも目指します。クラスは、TOEIC450 点程度以上の英語力獲得に向けて構成されています。			
授業の概要			
それぞれの生活場面で必要な単語や表現を学び、それを実際にペアワーク、グループワークで発信する練習を行います。使う場面を意識しながら学習することで高い学習効果が得られます。各ユニットで、日常会話に必要な文法項目や TOEIC によく出るビジネス関連語彙も学習します。ミニテスト、発表の回を設け、学習したところをアウトプットすることにより定着を促します。			
授業計画			
第 1 回 授業概要とガイドライン. Breakthrough Plus (Level 2) Unit 1. 第 2 回 TOEIC Unit 1 テスト形式を知る. Part 1-4. 第 3 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 1. NGSL 語彙 study No.1 (1340-1369). 第 4 回 TOEIC Unit 1 .テスト形式を知る. Part 5-7. NGSL 語彙テスト No.1 (1340-1369). 第 5 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 2. NGSL 語彙 study No.2 (1370-1399). 第 6 回 TOEIC Unit 2. 基本戦略 1 Part 1-4. NGSL 語彙テスト No.2 (1370-1399). 第 7 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 2. NGSL 語彙 study No.3 (1400-1429). 第 8 回 TOEIC Unit 2. 基本戦略 1 Part 5-7. NGSL 語彙テスト No.3 (1400-1429). 第 9 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 3. NGSL 語彙 study No.4 (1430-1459). 第 10 回 TOEIC Unit 3. 基本戦略 2 Part 1-4. NGSL 語彙テスト No.4 (1430-1459). 第 11 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 3. NGSL 語彙 study No.5 (1460-1489). 第 12 回 TOEIC Unit 3. 基本戦略 2 Part 5-7. NGSL 語彙テスト No.5 (1460-1489). 第 13 回 Breakthrough Plus (Level 2) Review 1 (Units 1-3). NGSL 語彙 study No.6 (1490-1519). 第 14 回 TOEIC Unit 1 -3 Mid-term review. NGSL 語彙テスト No.6 (1490-1519). 第 15 回 Breakthrough Plus (Level 2) 中間テスト. Breakthrough Plus (Level 2) Unit 4. NGSL 語彙 study No.7 (1520-1549). 第 16 回 TOEIC Unit 4. 英文の基本構造を見抜く Part 1-4. NGSL 語彙テスト No.7 (1520-1549). 第 17 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 4. NGSL 語彙 study No.8 (1550-1579). 第 18 回 TOEIC Unit 4. 英文の基本構造を見抜く Part 5-7. NGSL 語彙テスト No.8 (1550-1579). 第 19 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 5. NGSL 語彙 study No.9 (1580-1609). 第 20 回 TOEIC Unit 5. 解答根拠の登場順 Part 1-4. NGSL 語彙テスト No.9 (1580-1609). 第 21 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 5. NGSL 語彙 study No.10 (1610-1639). 第 22 回 TOEIC Unit 5. 解答根拠の登場順 Part 5-7. NGSL 語彙テスト No.10 (1610-1639). 第 23 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 6. NGSL 語彙 study No.11 (1640-1669). 第 24 回 TOEIC. Unit 6 正解の言い換え パターンを知る. Part 1-4. NGSL 語彙テスト No.11 (1640-1669). 第 25 回 Breakthrough Plus (Level 2) Unit 6. NGSL 語彙 study No.12 (1670-1699). 第 26 回 TOEIC. Unit 6 正解の言い換え パターンを知る. Part 5-7. NGSL 語彙テスト No.12 (1670-1699). 第 27 回 Breakthrough Plus (Level 2) Review 2 (Units 4-6). NGSL 語彙 study No.13 (1700-1729). 第 28 回 TOEIC review. TOEIC L&R 模擬テスト. NGSL 語彙テスト No.13 (1700-1729). 第 29 回 Breakthrough Plus (Level 2) 期末テスト. NGSL 語彙 study No.14 (1730-1759). 第 30 回 インタビューテスト. NGSL 語彙テスト No.14 (1730-1759).			
テキスト			
Breakthrough Plus 2(macmillan education) Level-up Trainer for the TOEIC Test. Revised Edition (Cengage Learning). English Central Web 教材 VPT 版 (NGSL 語彙)			
参考書・参考資料等			
必要に応じて指示します。			
学生に対する評価			
授業参加(発表)：15%、宿題・課題提出: 20%、小テスト(TOEIC)：20%			

中間テスト: 10% (Breakthrough Plus テキストに基づくリスニング・文法・語彙テスト)
期末テスト: 10% (Breakthrough Plus テキストに基づくリスニング・文法・語彙テスト)
期末のインタビューテスト: 10%
NGSL: 15% (毎週の授業中 Vocabulary Progress Test 5%;毎週の単語学習目標を達成:10%)
単位修得には、模擬 TOEIC L&R テストの受験が必要です。詳細は授業で説明します。

授業科目名： 教育原論・教育課程論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 福若 真人・祐岡 武志 担当形態： オムニバス
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		
授業のテーマ及び到達目標				
【授業のテーマ】 教育の歴史や思想、教育課程の意義や課題をふまえつつ、教育の現代的諸課題や自らの子ども観や教育観について、批判的に考察する				
【到達目標】 1) 教育という営みを支えている理念やカリキュラムの意義や課題について、説明することができる 2) 教育の思想や歴史および教育課程に関する基礎的な知識をもとに、教育の現代的諸課題について考察することができる 3) 他者の考えや知識をふまえつつ、自らの子ども観や教育観について批判的に考察することができる				
授業の概要				
教育の歴史や思想、教育課程の意義や課題、編成の方法などについて、文献や ICT 教材などを用いて考察し、講義を行う。その際、教育の理念に関わる多様な子ども観や学習のあり方、教育制度の意義や課題などについて、哲学的・歴史的にどのように語られてきたのかという観点から批判的に検討する。受講者には主体的・積極的な授業への参加を求め、討論やグループワークなどを行う場合もある。				
授業計画				
第1回: 「教育」や「学校」をめぐる原風景 【福若】 第2回: 公教育の基本原則(1) 公教育の三つの原則 【福若】 第3回: 公教育の基本原則(2) 近代公教育制度の理念 【福若】 第4回: 公教育の意義と課題 【福若】 第5回: 西洋の教育の歴史(1) 「子ども」をめぐる理念や思想(ルソー・デューイなど)の整理 【福若】 第6回: 西洋の教育の歴史(2) 「子ども」をめぐる理念や思想の探究 【福若】 第7回: 子ども観の捉え直し 【福若】 第8回: 日本の教育の歴史(1) 子どもの「学び」をめぐる理念や思想の整理 【福若】 第9回: 日本の教育の歴史(2) 子どもの「学び」をめぐる理念や思想の探究 【福若】 第10回: 子どもの多様な「学び」と「育ち」 【祐岡】 第11回: 「学力」の形成と学校教育(1) 教育課程、カリキュラム・マネジメント、教育評価と授業の編成 【祐岡】 第12回: 「学力」の形成と学校教育(2) 学習指導要領・答申の変遷と授業との関連 【祐岡】 第13回: 学校における教師の役割と社会とのつながり 【祐岡】 第14回: 教育の現代的諸課題 【祐岡】 第15回: 授業の総括 【福若】				
テキスト				
指定しない(適宜、プリントなど資料を配布する)				
参考書・参考資料等 勝野正章・庄井良信著『問いから始める教育学 [改訂版]』(有斐閣、2022年、2,090円) 島田和幸・高宮正貴編著『教育原理』(ミネルヴァ書房、2018年、2,420円) 香川七海・福若真人・蒲生諒太編著『教育原理』(七猫社、2019年、2,200円) 田中耕治編『よくわかる教育課程 第2版』(ミネルヴァ書房、2018年、2,860円) 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省) (東山書房、2018年、834円、文部科学省 HP からダウンロード可) 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省(東山書房、2020年、397円、文部科学省 HP からダウンロード可) その他、授業内に適宜、紹介する。				
学生に対する評価				
平常点(20%)＋授業内課題(30%)＋期末レポート(50%)				

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 福若 真人 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】 現代社会における教職の重要性を踏まえつつ、教職の意義や教員の役割・資質能力・職務内容等について把握するとともに、進路選択に資する教職のあり方について、批判的に考察する			
【到達目標】 1) 日本における学校教育や教職の社会的な意義について理解し、説明することができる 2) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務について理解し、説明することができる 3) 教育の動向から、教員に求められる役割や資質能力、組織的な学校運営のあり方について批判的に考察することができる			
授業の概要 本授業では、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等の教職に関する知識について身につけ、現代の教師およびこれからの教師について、歴史、社会的背景を考慮しながら、批判的に考察することができることをめざす。授業では、グループワークや討論などを通して、他者の考えを踏まえつつ自分の考えを深め言語化するなど、アウトプットの機会を取り入れた授業を実施する。			
授業計画 第1回： 授業の概要 第2回： 職業としての「教師」 第3回： 日本における教職の特徴 第4回： 教員の服務 第5回： 教員の権利と身分保障 第6回： 教師像・教師観の歴史的変遷 第7回： 教師の仕事とその魅力(1) 初等教育の教師 第8回： 教師の仕事とその魅力(2) 中等教育の教師 第9回： 教師の専門性 第10回： 学校を構成するさまざまな専門職とチームとしての学校運営 第11回： 学び続ける教師 第12回： 教師の権力性をめぐる事例検討 第13回： 教師の当事者性の問い直し 第14回： 教師の立場性をめぐる事例検討 第15回： 授業の総括 定期試験			
テキスト 佐久間亜紀・佐伯胖編 『現代の教師論』(ミネルヴァ書房、2019 年、2,200 円)			
参考書・参考資料等 グループ・ディダクティカ編 『教師になること、教師であり続けること』(勁草書房、2021 年、2,860 円) 津田徹・広岡義之編 『教職論』(ミネルヴァ書房、2021 年、2,640 円) その他、授業内に適宜、紹介する。			
学生に対する評価 平常点(20%)＋授業内課題(30%)＋定期試験(50%)			

授業科目名： 学校制度論 1		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 平山 弘、福若真人 担当形態： 複数・オムニバス
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		
授業のテーマ及び到達目標				
【テーマ】我が国の学校制度の理解と教育関連法規を知る 【到達目標】日本国憲法の下での学校制度及びその根幹をなす教育関連法規の理解を深め、これらについて考察を行うことができる。具体的には教育の目的と理念を知り、教育の実施に対する基本及び教育行政の組織及び運営に関する理解を踏まえた上で、学校経営の中心となる施策としての「魅力ある学校経営と魅力ある学級経営づくり」「児童生徒のウェルビーイングを意識した学校づくり」「学校組織としての児童生徒の安全面の保障と精神面からの安心感を与える学校づくり」「地域社会とともにある開かれた学校づくり」「ワークライフバランスを意識した学校づくり」「カリキュラム・マネジメントの重要性」について説明できるようになる。				
授業の概要				
本科目は、講義科目である。本講義では我が国の学校制度について社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)の観点から学ぶことになる。ここでは日本国憲法の下での学校制度の根幹をなす教育基本法を始め、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律などを最初にしっかりと押さえることで、毎回の授業計画の内容と関連法規がどのように対応しているのかを常に意識しながら展開されることになる。学校制度論1では教育関連法規に基づく様々な学校及び教育制度に関わる事項について理論的に学習する。このことは将来教員を目指す学生が日々の現場での教育活動を行う上で当然理解しておくべき事柄であり、それらはさまざまなケースに柔軟に対応するための素養ともなるものである。本講義を通して、教育に関わる知識・技術および思考力・判断力・表現力を学ぶとともに、ひとりの人間として、魅力ある教員として備えておくべき主体性・協働性・多様性を習得することを目指すことになる。				
授業計画				
第 1 回: 授業ガイダンス 学校制度 学校を取り巻く法律にはどのようなものがあるのか 日本国憲法 教育基本法 学校教育法 地方教育行政の組織及び運営に関する法律 いじめ防止対策推進法など PDCA の重要性(担当 平山・福若)				
第 2 回: 教育の目的及び教育の目標(担当 福若)				
第 3 回: 生涯学習の理念(担当 福若)				
第 4 回: 教育の機会均等(担当 福若)				
第 5 回: 教育の実施に対する基本 義務教育 学校教育(担当 福若)				
第 6 回: 学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力(担当 福若)				
第 7 回: 教育行政のしくみ 教育振興基本計画(担当 福若)				
第 8 回: 教職員 教員の使命 教育職員免許法 地方公務員特例法 (担当 福若)				
第 9 回: 学校経営(1)魅力ある学校経営と魅力ある学級経営づくり PDCA の重要性 学校のブランド化と学級のブランド化検討(担当 平山)				
第 10 回:学校経営(2)児童生徒のウェルビーイングを意識した学校づくり 日本とイタリアの事例から(担当 平山)				
第 11 回:学校経営(3)学校組織としての児童生徒の安全面の保障と精神面からの安心感を与える学校づくり(担当 平山)				
第 12 回:学校経営(4)地域社会とともにある開かれた学校づくり(担当 平山)				
第 13 回:学校経営(5)ワークライフバランスを意識した学校づくり(担当 平山)				
第 14 回:学校経営(6)カリキュラム・マネジメントの重要性 PDCA の重要性(担当 平山)				
第 15 回:学校制度論1のまとめ(担当 平山・福若) 定期試験は実施しない。				
テキスト				
本図愛実・末富芳編(2023)『新・教育の制度と経営』学事出版。 関連資料を配布する。				
参考書・参考資料等				
勝野正章編(2020)『教育の法制度と経営』学文社。 勝野正章・庄井良信(2022)『問いからはじめる教育学 [改訂版] 』有斐閣。 教育の未来を研究する会(2022)『教育動向2023』明治図書。 酒井朗編(2021)『現代社会と教育』ミネルヴァ書房。 田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二(2016)『やさしい教育原理』有斐閣アルマ。 田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之(2019)『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣アルマ。 平山弘(2020)「学校組織における情報価値の重要性」『ブランド価値基盤の転換とブランド再構築』晃洋書房。 平山弘(2023)「Well-being 時代における AI と学校教育の動向について」『日本健康・スポーツ教育学会第9回学術大会講				

演集』一般社団法人日本健康・スポーツ教育学会。

平山弘(2023)「ウェルビーイング時代におけるブランド価値の重要性」『日本健康・スポーツ教育学会第9回学術大会講

演集』一般社団法人日本健康・スポーツ教育学会。

兵庫県教育委員会編(2022)『指導の重点』兵庫県教育委員会。

学生に対する評価

成績評価基準

学期末課題レポート 40 点と毎授業時の提出課題レポート 60 点(4 点×15 回)を合計し、70%以上を合格とする。

授業科目名: 学校制度論 2	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数: 2 単位	担当教員名: 平山 弘、福若真人 担当形態: 複数・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】我が国の学校制度の理解と事例研究を通じた課題解決へ向けたアプローチ 【到達目標】日本国憲法の下での学校制度及びその根幹をなす教育関連法規の理解を深め、これらに関わる教育的課題について考察を行うことができる。具体的には学校制度論1で学修した内容(教育の目的と理念を知り、教育の実施に対する基本及び教育行政の組織及び運営に関する理解を踏まえた上で、学校経営の中心となる施策としての「魅力ある学校経営と魅力ある学級経営づくり」「児童生徒のウェルビーイングを意識した学校づくり」「学校組織としての児童生徒の安全面の保障と精神面からの安心感を与える学校づくり」「地域社会とともにある開かれた学校づくり」「ワークライフバランスを意識した学校づくり」「カリキュラム・マネジメントの重要性」)から顕現される教育上の諸課題とその解決へ向けたアプローチが説明できるようになる。			
授業の概要			
本科目は講義科目であるが、その授業にあたっては下記に示す様々な思考・分析方法を取り入れる。本講義では我が国の学校制度について社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む)の観点から学ぶことになる。ここでは日本国憲法の下での学校制度の根幹をなす教育基本法を始め、学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律などを再度しっかりと押さえることで、毎回の授業計画の内容と関連法規がどのように対応しているのかを常に意識しながら展開されることになる。学校制度論2では教育関連法規に基づく様々な学校及び教育制度に関わる事項について理論的に学習した学校制度論1の発展的科目として、教育に関わる課題及び事例研究をベースにしたディスカッションを中心にした一部演習形式で実施する。具体的には教員による事例の紹介や教育関連法規との関わりを説明した後、思考・分析手法としてブレインストーミング・KJ法・ウェビングマップ・6W2H・MECE・ロジックツリー・SWOT・マトリックス等を用いながら行うことになる。このことは将来教員を目指す学生が日々の現場での教育活動上、当然理解しておくべき事柄であり、それらはさまざまなケースに柔軟に対応するための教育技術ともなるものである。本講義を通して、教育に関わる知識・技術および思考力・判断力・表現力を学ぶとともに、ひとりの人間として、魅力ある教員として備えておくべき主体性・協働性・多様性を習得することを目指すことになる。			
授業計画			
第1回: ガイダンス 授業の進め方 演習形式 ディスカッション 様々な思考・分析手法の紹介(担当 平山・福若)			
第2回: 教育の目的及び教育の目標➡現在の学校教育制度と戦前の学校教育制度の違いから見えてくるもの(担当 福若)			
第3回: 生涯学習の理念➡生涯に互って学び続けるためにはどのようなしくみづくりと意識改革が必要なのか(担当 福若)			
第4回: 教育の機会均等➡高校の授業料無償化は普遍主義であるべきなのか(担当 福若)			
第5回: 教育の実施に対する基本 義務教育 学校教育➡就学援助制度における自治体間格差とは何か(担当 福若)			
第6回: 学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力➡地域活性化のために必要な連携協力について考えてみよう(担当 福若)			
第7回: 教育行政のしくみ➡教科書制度について考えてみよう(担当 福若)			
第8回: 教職員 教員の使命 教育職員免許法 地方公務員特例法➡教職希望者を増やすにはどのようにすればよいか(担当 福若)			
第9回: 学校経営(1)魅力ある学校経営と魅力ある学級経営づくり➡魅力ある学校と魅力ある学級とは何か ブランド化の視点(担当 平山)			
第10回:学校経営(2)児童生徒のウェルビーイングを意識した学校づくり➡ウェルビーイングを測る尺度を考えてみよう(担当 平山)			
第11回:学校経営(3)学校組織としての児童生徒の安全面の保障と精神面からの安心感を与える学校づくり➡危機管理理想定実践(担当 平山)			
第12回:学校経営(4)地域社会とともにある開かれた学校づくり➡地域と一体となって子供たちを育むために必要なことは何か(担当 平山)			
第13回:学校経営(5)ワークライフバランスを意識した学校づくり➡教員の仕事と教員自身の生活の調和を図るには(担当 平山)			
第14回:学校経営(6)カリキュラム・マネジメントの重要性➡AI 技術の教育現場への導入とカリキュラム・マネジメントの方向性(担当 平山)			
第15回:学校制度論2のまとめ(担当 平山・福若)			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
本図愛実・末富芳編(2023)『新・教育の制度と経営』学事出版。 プリント資料を配布する。			
参考書・参考資料等			

<p>勝野正章編(2020)『教育の法制度と経営』学文社。</p> <p>勝野正章・庄井良信(2022)『問いからはじめる教育学〔改訂版〕』有斐閣。</p> <p>教育の未来を研究する会(2022)『教育動向2023』明治図書。</p> <p>酒井朗編(2021)『現代社会と教育』ミネルヴァ書房。</p> <p>田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二(2016)『やさしい教育原理』有斐閣アルマ。</p> <p>田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之(2019)『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣アルマ。</p> <p>平山弘(2020)「学校組織における情報価値の重要性」『ブランド価値基盤の転換とブランド再構築』晃洋書房。</p> <p>平山弘(2023)「Well-being 時代における AI と学校教育の動向について」『日本健康・スポーツ教育学会第9回学術大会講演集』一般社団法人日本健康・スポーツ教育学会。</p> <p>平山弘(2023)「ウェルビーイング時代におけるブランド価値の重要性」『日本健康・スポーツ教育学会第9回学術大会講演集』一般社団法人日本健康・スポーツ教育学会。</p> <p>兵庫県教育委員会編(2022)『指導の重点』兵庫県教育委員会。</p>
<p>学生に対する評価</p>
<p>成績評価基準</p>
<p>学期末課題レポート 40 点と毎授業時の教育実践課題レポート 60 点(4 点×15 回)を合計し、70%以上を合格とする。</p>

シラバス

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 崎濱 秀行
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
・幼児・児童・生徒理解に必要な事柄(心身の発達及び学習の過程に関する内容)の習得 ・児童生徒が自律性・主体性を育みながら日々変化を遂げようとする存在であることへの理解 ・児童生徒の学びや発達の特徴を踏まえた、教師としての彼らへの関わり方について自身の見解の確立			
授業の概要			
この授業で扱うのは、乳児期から青年期に至るまでの人の学び(学習)の過程、心身の発達の過程に関わる内容である。前半では主に「学習」に関する内容が、後半では主に「発達」に関する内容が取り扱われる。授業では、これらの内容の背景にある心理学の理論や考え方に触れつつ、可能な場合には、実際の児童生徒の様子との関連づけも行っていく。			
授業計画			
第 1 回：オリエンテーションー教育心理学について学ぶ意味(教科書第0章) 第 2 回：学習のメカニズムー条件づけとその応用(教科書第1章) 第 3 回：動機づけの基礎ーやる気を心理学的に捉える(教科書第2章) 第 4 回：動機づけの応用ーやる気を引き出し、持続させるには(教科書第3章) 第 5 回：記憶の分類ー人間の記憶の多様性を考える(教科書第4章) 第 6 回：記憶の理論を活かすー効果的な「覚え方＝思い出し方」(教科書第5章) 第 7 回：学習方略ー子どもの自律的な学習を目指して(教科書第6章) 第 8 回：メタ認知と学習観ー学習を振り返り、コントロールする意義(教科書第7章) 第 9 回：発達の理論ー発達を見つめる枠組み(教科書第8章) 第 10 回：乳・幼児期の発達ー心の芽生え(教科書第9章) 第 11 回：社会性・道徳性の発達ー社会への適応(教科書第 10 章) 第 12 回：学級集団づくりー一人ひとりの変化成長のために(教科書第 11 章) 第 13 回：青年期の発達ー自己の形成(教科書第 13 章) 第 14 回：学習評価ー誰が何のために評価するのか(教科書第 15 章) 第 15 回：全体のまとめ			
テキスト			
藤田哲也(編)『絶対役立つ教育心理学[第2版]ー実践の理論、理論を実践ー』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
荒木紀幸(編)『教育心理学の最先端ー自尊感情の育成と学校生活の充実ー』あいり出版 麻生武『発達と教育の心理学 子どもは「ひと」の原点』培風館 吉川成司・関田一彦・鈎治雄(編)『はじめて学ぶ教育心理学』ミネルヴァ書房			
学生に対する評価			
試験(またはレポート)70%、平常点(主に課題)30%の配点率で成績を決定する。			

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：西岡 啓彦 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標			
通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害など様々な障害により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業や学校等の生活場面において自尊感情を高め生きる力を身に付けていけるように学習上又は生活上の困難や障害の特性及び心身の発達を理解するとともに、障害ではないが特別の教育的ニーズがある幼児児童生徒に対しても、個別のニーズに対して、認知特性に対する合理的配慮を踏まえた支援を学ぶとともに他の教員や関連機関と連携しながらチーム学校として組織的に対応していくために必要な知識や支援方法の理解を深める。			
授業の概要			
障害による困り感は障害の特性と環境との相互作用により生じるものであり生物心理社会モデルに立脚し発達の観点を踏まえ理解することが必要である。学習方法を例にとらえれば、聴覚的記憶が苦手な学習者が九九の指導において「ニンガシ」と口唱する学習方法が用いられれば効果は期待できない。しかし、視覚的記憶が高ければ「九九カード」を用いた視覚的支援を行えば効果が期待できる。なお、この認知能力を客観的に調べるのが WISC－Ⅳなどの心理検査である。本授業では個人内の弱い認知能力に配慮し高い認知能力を活用した所謂「短所配慮・長所活用」の支援を学ぶ。このことを通し通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害を中心に障害の有無にかかわらず特別の支援を必要とする幼児児童生徒の学習上や生活上の困り感への理解を図るとともに学校現場での実践例を基に、具体的な支援方法やチーム学校としての組織的な対応の仕方を学ぶところに特徴がある。			
授業計画			
第1回：インクルーシブ理念に立脚する特別支援教育に関する制度の理念と学校組織について 第2回：ADHD の理解と具体的な支援方法について 第3回：自閉症スペクトラムの理解と具体的な支援方法について 第4回：LD及び軽度知的障害の理解と具体的な支援方法について 第5回：知的障害・肢体不自由など特別支援学級に在籍する障害の特性についての理解 第6回：障害ではないが特別の教育的ニーズがある児童生徒への理解と支援方法について 第7回：WISC－Ⅳなど心理検査の理解と学習支援への活用について 第8回：「ひらがな」が読めない、「漢字書字」困難などデスレクシアの理解と支援について 第9回：「繰り上がり計算」が困難など、ワーキングメモリの弱さによる困難の理解と支援について 第 10 回：「算数文章題」の困難など、言語的理解の弱さによる困難の理解と支援について 第 11 回：行動上の困り感の理解と認知特性を活かした支援について 第 12 回：応用行動分析に基づく自尊感情の高め方と支援について 第 13 回：「通級についての指導」、「特別支援学級」及び「通常の学級」の位置づけと交流について 第 14 回：障害理解教育の理解と個別の指導計画及び個別の教育支援計画の意義と作成について 第 15 回：保護者への教育相談及びチーム学校としての組織的対応について 定期試験			
テキスト			
特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(最新版 文部科学省)			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜資料を配布する			
学生に対する評価			
ノート点検(30%)、授業への参加態度(20%)、筆記テスト(50%)			

授業科目名： 特別活動・総合的な探究の 時間の指導法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 祐岡 武志、竹村 景生 担当形態： オムニバス
科 目		道徳、総合的な探究の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談当に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・総合的な探究の時間の指導法 ・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標				
本授業では、特別活動と総合的な探究の時間が、教育上重要な領域であることを理解し、特別活動や総合的な探究の時間がねらいとしている、学校生活を豊かにすることと社会性を育成することを講義や実践を通して学ぶことを主題とする。 【授業の到達目標】 1. 特別活動と総合的な探究の時間の目標をとおり、教育領域的意義を理解する。 2. 特別活動と総合的な探究の時間の構成に沿って、指導計画をたてる。 3. 計画に沿って模擬授業を実施し、相互評価をする。				
授業の概要				
本科目の授業は大きく3つの段階から計画する。最初に特別活動と総合的な探究の時間に関するこれまでの教育研究の成果を、主に講義により概観する。次に、学習した特別活動と総合的な探究の時間の実践例等を参考にして、指導計画と指導案を作成する演習を行う。最後に、開発した指導案に基づく模擬授業を実施し、学生相互で授業の分析と評価を行う。				
授業計画				
第 1 回 オリエンテーション(授業計画の概要説明、特別活動と総合的な探究の時間の位置付け)(担当:祐岡武志、竹村景生)				
第 2 回 特別活動の理念と変遷(具体的目標と学習指導要領の変遷)(担当:竹村景生)				
第 3 回 特別活動の内容と方法1(指導方法の多様性)(担当:竹村景生)				
第 4 回 特別活動の内容と方法2(ホームルーム、生徒会活動、学校行事における教育活動)(担当:竹村景生)				
第 5 回 総合的な探究の時間の理念と変遷(具体的目標と学習指導要領の変遷)(担当:祐岡武志)				
第 6 回 総合的な探究の時間の内容と方法1(指導方法の多様性)(担当:祐岡武志)				
第 7 回 総合的な探究の時間の内容と方法2(総合的な探究の時間における教育活動)(担当:祐岡武志)				
第 8 回 指導計画の作成(教育課程と授業計画)(担当:祐岡武志)				
第 9 回 指導案の作成1(特別活動の指導案作成演習・模擬授業準備)(担当:竹村景生)				
第 10 回 指導案の作成2(総合的な探究の時間の指導案作成演習・模擬授業準備)(担当:祐岡武志)				
第 11 回 授業実践1(特別活動の模擬授業と相互評価)(担当:竹村景生)				
第 12 回 授業実践2(特別活動の模擬授業と相互評価)(担当:竹村景生)				
第 13 回 授業実践3(総合的な探究の時間の模擬授業と相互評価)(担当:祐岡武志)				
第 14 回 授業実践4(総合的な探究の時間の模擬授業と相互評価)(担当:祐岡武志)				
第 15 回 まとめ(特別活動と総合的な探究の時間の意義及び、授業への取り組みの自己評価と授業評価アンケート)(担当:祐岡武志、竹村景生)				
※ 受講者数によっては、授業実践を中心とした授業計画を変更する場合がある。				
テキスト				
林尚示(編)『特別活動 改訂版 総合的な学習(探究)の時間とともに』(学文社) その他、必要に応じ資料を配付する。				
参考書・参考資料等				
文部科学省『高等学校学習指導要(平成 30 年告示)解説 特別活動編』(東京書籍) 文部科学省『高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 総合的な探究の時間編』(学校図書) その他、授業中に適宜指示する。				
学生に対する評価				
成績は、授業外学習や学習上の留意点も含めた、授業への参加度で評価する。 ※ 模擬授業(50%)グループワーク等の活動状況(30%)授業中提出物(20%)				

授業科目名： 教育方法・技術論（ICT 活用を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 祐岡 武志 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な探究の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 本授業では、学校教育における教育方法及び技術と情報通信技術の活用について、基礎的な論理や技術を学ぶとともに、効果的な学習指導や校務の推進のための具体的な事例をもとに、その対応方法を考察する。また、主体的・対話的で深い学びの実現や情報活用能力の育成についても、講義や実践を通して身につけることを主題とする。 【授業の到達目標】 1. 教育方法及び技術と情報通信技術活用の論理と技術を、具体的な事例を通して理解する。 2. 教育方法及び技術と情報通信技術活用の論理と技術に沿って、授業展開や教材開発の計画をたてる。 3. 教育方法及び技術と情報通信技術活用に基づく指導計画に沿って模擬授業を実施し、相互評価をする。			
授業の概要 本科目の授業は大きく3つの段階から計画する。最初に教育方法及び技術と情報通信技術活用に関するこれまでの教育研究の成果を、主に講義により概観する。次に、学習した教育方法及び技術と情報通信技術活用の論理と技術を用いて、授業展開や教材開発の計画に基づく指導案と教材を作成する演習を行う。最後に、作成した指導案と教材に基づく模擬授業を実施し、学生相互で授業の分析と評価を行う。			
授業計画 第 1 回 オリエンテーション(授業計画の概要説明) 第 2 回 教育方法・技術論の内容と方法1(学級で教えることの意味と実践) 第 3 回 教育方法・技術論の内容と方法2(発問づくりの方法と集団思考の展開) 第 4 回 教育方法・技術論の内容と方法3(子どもの実態に応じた教材研究・教材解釈) 第 5 回 情報通信技術を活用した教育の内容と方法1(情報通信技術やデジタル教材の活用と板書の技術) 第 6 回 情報通信技術を活用した教育の内容と方法2(教育データを活用した教科指導と学習評価及び校務支援システムの活用) 第 7 回 情報通信技術を活用した教育の内容と方法3(情報モラルを含む情報活用能力の育成) 第 8 回 指導計画の作成(教育評価のあり方と校務における情報通信技術の活用をふまえた学習指導案の作成) 第 9 回 指導案と教材の作成1(教育の方法及び技術をふまえた指導案と教材の作成演習) 第 10 回 指導案と教材の作成2(ICT 活用の方法及び技術をふまえた指導案と教材の作成演習・模擬授業準備) 第 11 回 授業実践1(教育の方法及び技術をふまえた模擬授業と相互評価) 第 12 回 授業実践2(教育の方法及び技術をふまえた模擬授業と相互評価) 第 13 回 授業実践3(ICT 活用の方法及び技術をふまえた模擬授業と相互評価) 第 14 回 授業実践4(ICT 活用の方法及び技術をふまえた模擬授業と相互評価) 第 15 回 まとめ(授業への取り組みの自己評価と授業評価アンケート) ※受講者数によっては、授業実践を中心とした授業計画を変更する場合がある。			
テキスト 深澤広明(編)『教師教育講座第9巻 教育方法技術論』協同出版 その他、必要に応じ資料を配布する。			
参考書・参考資料等 授業中に適宜紹介する。			
学生に対する評価 成績は、授業外学習や学習上の留意点も含めた、授業への参加度で評価する。 ※ 模擬授業(50%)グループワーク等の活動状況(30%)授業中提出物(20%)			

シラバス

授業科目名： 生徒・進路指導論		教員の免許状取得のための 必修科目		単位数： 2 単位		担当教員名： 崎濱 秀行	
						担当形態：単独	
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談当に関する科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
授業のテーマ及び到達目標							
・生徒の生きる力の育成を意識した生徒指導・進路指導・キャリア教育のあり方の検討 ・各種検討を通じての教師としての指導力の育成							
授業の概要							
社会の急激な変化の中で、生徒をとりまく環境も時代とともに大きく変化してきている。このような状況を踏まえ、生徒の「生きる力」の育成が以前にもまして重視されている。こうした「生きる力」の育成を図る上で、生徒指導・進路指導・キャリア教育の果たす役割は大きい。そこで、この授業では、生きる力の育成を意識した生徒指導・進路指導・キャリア教育のあり方について、講義、個別学習、集団討議、実習等を交えて理解を深める。また、これらを通じて、生徒指導・進路指導・キャリア教育を進めていく上での力を育成する。 (上記には、学校教育上の諸課題(暴力行為、不登校、いじめ等)が生じる背景や諸課題への対応に関する講義、個別学習、集団討議、および、ガイダンス・カウンセリングとしての進路指導・キャリア教育に関する内容が含まれる)							
授業計画							
第1回：生徒指導 第2回：生徒指導の意義と原理 第3回：教育課程と生徒指導 第4回：学校における生徒指導 第5回：教育相談 第6回：個別の課題を抱える児童生徒への指導(不登校) 第7回：個別の課題を抱える児童生徒への指導(いじめ) 第8回：個別の課題を抱える児童生徒への指導(中途退学・暴力行為・少年非行) 第9回：個別の課題を抱える児童生徒への指導(性に関する課題・児童虐待・命の教育と自殺の防止) 第10回：個別の課題を抱える児童生徒への指導(インターネット・携帯電話にかかわる課題) 第11回：生徒指導に関する法制度等 第12回 学校と家庭・地域・関係機関との連携 第13回 進路指導・キャリア教育 第14回 進路指導・キャリア教育の実践(ガイダンスとしての指導・カウンセリングとしての指導) 第15回：生徒に向き合う上で大切なことがら(全体のまとめ)							
テキスト							
文部科学省(2011) 生徒指導提要 文部科学省 文部科学省(2011) 中学校キャリア教育の手引き 文部科学省(2011) 高等学校キャリア教育の手引き ※なお、改訂版・新版等、最新版が刊行された場合は最新版を使用する							
参考書・参考資料等							
授業中適宜指示する。							
学生に対する評価							
期末レポート 50 %、授業時の課題・ふりかえり・授業への関与度合い 50%で評価する。							

授業科目名： 教育相談の基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 房村 利香
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
＜テーマ＞ 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を獲得し、教育相談の意義と課題を理解する			
＜到達目標＞ ①学校における教育相談の意義と課題を理解している ②教育相談で必要となる様々な学校での問題や課題および発達段階や発達課題を理解している ③教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している			
授業の概要			
教育相談の理論や技法に関する基礎的知識について、事例も交えて具体的・体系的・総合的に学ぶ。また、児童生徒から相談をうけた際に身につけておくべき基礎知識を解説し、個々の児童生徒の状況を把握し評価するための知識や方法についても学ぶ。 授業では、不登校やいじめ等現代的な課題に関する具体的な事例を取り上げながら、教育相談とは何かを学ぶとともに、毎回ワークを取り入れながら、体験的に学習できる時間を持ち、実践力を身に着ける			
授業計画			
第1回 オリエンテーション・教育相談と生徒指導 第2回 子どもの発達 乳幼児期 第3回 子どもの発達 児童期 第4回 子どもの発達 思春期・青年期 第5回 いじめ 第6回 不登校とひきこもり 第7回 子どもの不適応や問題行動の現状(非行・虐待・ヤングケアラー等) 第8回 特別支援教育①前期レポート課題 第9回 特別支援教育②発達障がいの理解と対応 第 10 回 保護者支援 第 11 回 教育相談の進め方 第 12 回 カウンセリングの基礎 第 13 回 カウンセリングの技法 第 14 回 チーム学校における組織対応と多職種連携 第 15 回 まとめ、確認テスト			
テキスト			
特に指定しない。授業内で必要な場合は提示する。			
参考書・参考資料等			
『不登校の理解と支援のためのハンドブック』 伊藤美奈子編著 ミネルヴァ書房 2022 年			
学生に対する評価			
授業内評価(授業への参加度および取り組み) 30％ 授業内での小レポート 20％ 前半のまとめで予定のレポート 20％ まとめ課題テスト 30％			

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中・高）		単位数：2 単位		担当教員名：崎濱秀行、福若真人	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握(※ 1)	○	学校現場の意見聴取（※ 2）	○
受講者数 20 人					
教員の連携・協力体制 授業運営にあたっては、教育実践演習科目担当教員（教職に関する科目も担当）および各教科に関する科目担当者による協議を適宜行うこととする。また、必要に応じて協定校や松原市教育委員会等とも協議を行い、授業運営への協力を依頼することがある。					
授業のテーマ及び到達目標 本演習は「教師としての実践力の育成」をテーマとし、生徒・教科指導および教師としての資質に関する自らの課題に適切に対処できることを到達目標とする。					
授業の概要 本演習では中学校・高等学校教員としての実践力を育成するため、資質能力、社会性、保護者との連携、生徒理解、学級経営、教科指導、教師としての実践力の探求といった内容を扱う。討議、ロールプレイング、模擬授業、フィールドワークなどを適宜取り入れ、実践力育成を図る。なお、本演習を行うにあたっては、模擬授業やグループ発表の場面、討議結果の発表場面等、様々な場面でICTツールを活用する。					
授業計画 第 1 回： オリエンテーション（本演習の目的・概要・担当教員等の紹介） 第 2 回：教職・生徒指導力に関する探求(1)（中学または高校教員による講話・討議） 第 3 回：教職・生徒指導力に関する探求(2)（教師の資質能力に関する討議） 第 4 回：教職・生徒指導力に関する探求(3)（教師としての社会性に関する討議） 第 5 回：教職・生徒指導力に関する探求(4)（保護者との連携上の課題に関する討議・ロールプレイング） 第 6 回：教職・生徒指導力に関する探求(5)（生徒理解・学級経営上の課題に関する討議） 第 7 回：教科指導力に関する探求(1)（中学または高校教員による講話・討議） 第 8 回：教科指導力に関する探求(2) ー模擬授業1ー 第 9 回：教科指導力に関する探求(3) ー模擬授業2ー 第 1 0 回：教科指導力に関する探求(4)（現職教員の講話および模擬授業結果を踏まえた討議） 第 1 1 回：学校見学（教師の指導力に関するフィールドワーク） 第 1 2 回：学校見学を踏まえた教師の指導力に関する探求（討議） 第 1 3 回：教師としての実践力に関する探求(1)ーグループ発表①（教科：社会、地理歴史、公民、情報） 第 1 4 回：教師としての実践力に関する探求(2)ーグループ発表②（教科：商業、英語） 第 1 5 回：総括（全体の反省・今後の教員生活に向けての心構え）					
テキスト 必要に応じて資料等を配布する。					
参考書・参考資料等 授業中適宜指示する。					
学生に対する評価 レポート50%、授業への関与度合い 50%で評価する。					

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。